

## 第42回北陸医学会総会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/8073">http://hdl.handle.net/2297/8073</a>

## 学 会

## 第42回北陸医学会総会

日 時：昭和63年9月4日(日)9時30分

場 所：福井医科大学  
福井県医師会館  
福井県歯科医師会館  
福井県総合グリーンセンター

## シンポジウム 「臓器別悪性腫瘍の治療，最近の進歩」

司会 中村 徹(福井医科大学第1内科)  
齋藤 等(福井医科大学耳鼻咽喉科)

1. 頭頸部腫瘍  
齋藤 等(福井医科大学耳鼻咽喉科)
  2. 肺腫瘍  
佐々木文彦(福井医科大学第3内科)  
宮保 進(福井医科大学第3内科)
  3. 消化器腫瘍  
谷川允彦(福井医科大学第2外科)
  4. 肝・膵臓腫瘍  
小島靖彦(福井医科大学第1外科)  
中川原儀三(福井医科大学第1外科)
  5. 女性性器腫瘍  
紙谷尚之(福井医科大学産科婦人科)
  6. 泌尿器腫瘍  
岡田謙一郎(福井医科大学泌尿器科)  
吉田 修(京都大学医学部泌尿器科)
  7. 造血器腫瘍  
上田孝典(福井医科大学第1内科)  
中村 徹(福井医科大学第1内科)
  8. 皮膚腫瘍  
上田恵一(福井医科大学皮膚科)
- 発言 放射線温熱治療  
中津川重一(福井医科大学放射線科)

## 第1会場 泌尿器科分科会

第341回 日本泌尿器科学会北陸地方会

## 症例報告(1)

座 長 塚原健治(福井赤十字)

1. 腎乳頭状腺癌の1例  
○李 秀雄, 塚原健治, 南後千秋  
(福井赤十字)

2. 医原性腎石灰化症の1例  
○小林重行, 喜久山明, 下 在和  
津川龍三(金沢医大)
3. CUSAによる腎血管筋脂肪腫摘除術の経験  
○酒井 晃, 萩中隆博(富山赤十字)
4. 両側腎癌の1例  
○山本秀和, 宮崎公臣, 中嶋孝夫  
藤田幸雄(藤田病院)  
宮崎良一(同 内科)  
布施春樹(金大)  
渡辺駿七郎(国立金沢検査部)
5. 静脈内塞栓を伴う腎腫瘍の手術経験  
○島田宏一郎, 小林徹治(福井県立)
6. 盲端不完全重複尿管の1例  
○元井 勇(氷見市民)  
山本 肇(金大)  
亀井哲也(富山医薬大放射線科)

## 症例報告(2)

座 長 萩中隆博(富山赤十字)

7. 尿管癌に対するVP-16の使用経験  
○藤城儀幸, 里見定信, 古田秀勝  
木村仁美, 秋谷 徹, 片山 喬  
(富山医大)  
小島 明(小島医院)
8. 小児膀胱結石の1例  
○中嶋孝夫, 宮崎公臣, 山本秀和  
藤田幸雄(藤田病院)  
瀬戸 親(金大)
9. 若年者に見られた前立腺肥大症の1例  
○川口正一, 平野章治, 美川郁夫  
(厚生連高岡)  
小田嶋肅夫(金沢医大第1病理)
10. 小児の膜様部尿道外傷に対する内視鏡的尿道形成術について  
○河原 優, 和田 修, 三輪吉司  
中村直博, 秋野裕信, 清水保夫  
岡田謙一郎(福井医大)
11. 両側陰囊内脂肪腫の1例  
○長野賢一, 布施春樹, 久住治男  
(金大)  
水上勇治(同 中央検査病理部)
12. 会陰部腫瘍を主訴とした悪性リンパ腫の1例  
○三輪吉司, 佐藤一博, 藤田知洋  
鈴木裕志, 岡野 学, 蟹本雄右  
岡田謙一郎(福井医大)

## 臨床的研究

座 長 打林忠雄 (金大)

## 13. Lithostar による腎結石の治療経験

- 白岩紀久男, 小林重行, 喜久山明  
馬込 敦, 山口智正, 江原 孝  
(浅ノ川病院)
- 田中達朗, 下 在和, 鈴木孝治  
津川龍三 (金沢医大)

## 14. ESWL 前後における血液生化学的検査所見について

- 江原 孝, 宮澤克人, 池田龍介  
(浅ノ川病院)
- 鈴木孝治, 津川龍三 (金沢医大)

## 15. 遠隔転移を伴った腎細胞癌の検討

- 村山和夫, 勝見哲郎 (国立金沢)
- 渡辺駿七郎 (同 研究検査科)

## 16. 富山県リハビリテーション病院における脳膀胱症例の臨床的検討

- 長野賢一, 新田政博, 平田昭夫  
久住治男 (金大)
- 横山 修 (高岡市民)

泉田重雄 (富山県高志リハビリテーション)

## 17. 無症候性顕微鏡的血尿に関する臨床的検討

- 菅田敏明 (福井済生会)
- 中島慎一 (砺波総合)
- 井田正博, 宮山士朗 (福井済生会放射線科)

## 基礎的研究

座 長 秋谷 徹 (富山医薬大)

## 18. Percoll を用いたラット Leyding 細胞の分離

- 風間泰蔵, 笹川五十次, 寺田為義  
片山 喬 (富山医薬大)

## 19. 鶏卵法による温熱と抗癌剤併用効果の検討

- 打林忠雄, 江川雅之, 浅利豊紀  
中嶋和喜, 久住治男 (金大)
- 遠藤良夫, 田中基裕, 佐々木琢磨  
(金大がん研化学療法部)

第3会場 外科分科会

第4会場

第211回 北陸外科学会

## 一般演題 A会場

座長 野口昌邦 (金沢大学手術部)

## 1. 甲状腺原発悪性リンパ腫の1例

- 高松 修, 伊与部尊和, 角谷直孝

滝田佳夫, 道馬昭太郎, 木下睦之  
浅井伴衛, 津田宏信 (国立金沢病院外科)

渡辺駿七郎 (同 検査科病理)

## 2. 甲状腺濾胞腺癌の臨床病理学的検討

- 小泉伊左夫, 坂田則昭, 佐久間寛  
喜多一郎, 高田道明, 高島茂樹  
木南義男 (金医大一般消化器外科)

## 3. 乳癌における組織 CA15-3 の臨床的意義について

- 田尻 潔, 津川浩一郎, 松木伸夫  
巴陵宣彦, 可西右使 (高岡市民病院外科)

## 4. 両側乳癌症例の検討

- 高橋政夫, 川浦幸佐, 佐々木正寿  
大村健二, 宗本義則, 山脇 優  
長瀬典子, 石黒栄紀, 村上 望  
関戸伸明, 小泉博志, 岩 喬  
(金大1外)

## 5. 乳腺腫瘍に対する画像診断の検討

- 松下昌弘, 坂田則昭, 佐久間寛  
喜多一郎, 高田道明, 高島茂樹  
木南義男  
(金医大一般消化器外科)

座長 藤田秀春 (福井医科大学第1外科)

## 6. 血管吻合による遊離空腸自家移植にて食道再建した胸部食道癌の1例

- 佐原雅之, 八木雅夫, 松本 尚  
北川裕久, 竹田利弥, 中野泰治  
小野田秀樹, 渡辺俊雄, 小西孝司  
宮崎逸夫 (金大2外)

## 7. 下部食道から胃にまたがる食道平滑筋腫の1治験例

- 東山考一, 濱名俊泰, 日野浩司  
榎原年宏, 中村 潔, 唐木芳昭  
藤巻雅夫 (富山医薬大2外)

## 8. 胃癌穿孔の1例

- 瀬川正孝, 加藤真史, 富田富士夫  
吉光外宏 (国立療養所敦賀病院外科)
- 松井 裕 (金大第1病理)

## 9. 早期胃癌を合併した原発性十二指腸癌の1例

- 疋島 寛, 魚津幸蔵, 木元文彦  
長谷川洋, 関川 博 (富山赤十字病院外科)
- 平岩善雄 (同 内科)
- 北川正信 (富山医薬大病理)

## 10. 胃癌肝再発に対し DDDP, MMC 動注後切除した1例

- 清崎浩一, 古川幸夫, 寺中正昭  
(城端厚生病院外科)

- 秋元 学 (金大放射線科)  
岡田仁克 (金大第 1 病棟)
11. 消化管出血で発見された胃神経鞘腫の 1 例  
○永里 敦, 足立 巖, 船木芳則  
生垣 茂 (国民健康保険輪島病院外科)  
座長 三輪晃一 (金沢大学第 2 外科)
13. 漿膜露出胃癌症例の検討  
○宮田龍和, 広野禎介, 小西一郎  
草島義徳, 嶋 裕一, 小矢崎直博  
北川裕久 (富山市民病院外科)  
高柳尹立 (同 研究検査部)
14. 胃癌 n 2 症例の検討  
○浅井 透, 高橋 豊, 木田百合  
出口 康, 源 利成, 藤本敏博  
太田孝仁, 上田 博, 荻野知巳  
磨井正義 (金大がん研外科)
15. 胃癌における大動脈周囲リンパ節郭清例の検討  
— 第 2 報 —  
○酒徳光明, 橋川弘勝, 平野 誠  
松 智彦, 高橋英雄, 斉藤 裕  
滝沢俊彦 (厚生連高岡病院外科)
16. 当教室における高齢者胃癌手術症例の検討  
○増田靖彦, 小原弘嗣, 打波 大  
井上 弘, 高橋康嗣, 谷川允彦  
村岡隆介 (福井医大 2 外)
17. 体表面走査飲水法による胃癌超音波診断の試み  
○魚津幸蔵, 疋島 寛, 木元文彦  
長谷川洋, 関川 博 (富山赤十字病院外科)  
荒木一郎, 大石 誠, 吉田 誠  
(同 内科)  
山本修治, 小林 健 (同 放射線科)  
座長 荻野知巳 (金沢大学がん研究所外科)
18. ヒト悪性腫瘍における多クローン構成の証明  
○下松谷匠, 小原弘嗣, 打波 大  
井上 弘, 高橋康嗣, 増田靖彦  
谷川允彦, 村岡隆介 (福井医大 2 外)
19. シアリアル SSEA-1 抗原 SLX および DU-PAN-2  
の腫瘍マーカーとしての意義  
○北尾忠寛, 林 茂, 古谷正晴  
原田武尚, 松下利雄, 麻田 勇  
城崎彦一郎, 田中猛夫 (福井赤十字病院外科)
20. 胃癌, 大腸癌肝再発症例のフォローアップにおけ  
る腫瘍マーカーモニタリングの意義  
○木田百合, 高橋 豊, 浅井 透  
出口 康, 源 利成, 藤本敏博  
太田孝仁, 上田 博, 荻野知巳
- 磨伊正義 (金大がん研外科)
21. 胃癌の DNA ploidy pattern と増殖活性  
○大山繁和, 米村 豊, 鎌田 徹  
長谷川啓, 竹川 茂, 熊木健夫  
杉山和夫, 藤村 隆, 小坂健夫  
伏田幸夫, 三輪晃一, 宮崎逸夫  
(金大 2 外)
22. Flow cytometry による大腸癌の DNA ploidy と  
臨床病理学的所見の検討  
○石田哲也, 小坂健夫, 黒阪慶幸  
竹川 茂, 熊木健雄, 西村元一  
加藤真史, 山口明夫, 米村 豊  
宮崎逸夫 (金大 2 外)
23. 化学療法を併用したアミノ酸インバランス療法の  
経験  
○野手雅幸, 藤田秀春, 前原正典  
土山智邦, 高橋嘉彦, 小林泰三  
関 弘明, 小島靖彦, 嶋田 紘  
中川原儀三 (福井医大 1 外)  
座長 鈴木修一郎 (富山医科薬科大学第 2 外科)
24. 膵炎症状で初発した膵癌症例の検討  
○安川ひろ美, 小島靖彦, 松葉 明  
磯部芳彰, 古村能章, 福島 弥  
嶋田 紘, 藤田秀春, 中川原儀三  
(福井医大 1 外)
25. 慢性膵炎手術症例の検討  
秋山高儀, 竹田利弥, 蓮見俊彰  
魚岸 誠, 素谷 宏, 神野正一  
(恵寿総合病院胃腸科)  
鈴木正行 (金大放射線科)
26. 膵の cystic adenocarcinoma の 1 例  
○横山 隆, 古田和雄, 原 和人  
(城北病院外科)  
大野健次, 山本和利 (同 内科)  
島 隆雄, 清光義則 (寺井病院内科)  
岩瀬俊郎 (小松みなみ診療所)
27. 術後膵瘻症例の検討  
○指宿昌彦, 坂田則昭, 佐久間寛  
喜多一郎, 高田道明, 高島茂樹  
木南義男 (金医大一般消化器外科)
28. 膵胃吻合症例の検討  
○松木伸夫, 津川浩一郎, 田尻 潔  
巴陵宣彦, 可西右使 (高岡市民病院外科)  
座長 三浦将司 (福井県済生会病院外科)
29. 高度肝硬変合併肝癌の手術成績  
○栢谷博孝, 泉 良平, 清水康一

福島 亘, 黒阪慶幸, 堀地 肇  
谷 卓, 北林一男, 藪下和久  
渡辺俊雄, 小西孝司, 宮崎逸夫  
(金大2外)

## 30. AFP 産生と肝細胞癌の予後

○黒阪慶幸, 泉 良平, 清水康一  
福島 亘, 榎谷博孝, 堀地 肇  
谷 卓, 北林一男, 藪下和久  
渡辺俊雄, 小西孝司, 宮崎逸夫  
(金大2外)

## 31. トロトラスト造影剤使用後35年後に肝癌と診断された1例

○片田正一, 北川 晋, 岩上 栄  
広瀬宏一, 花立史香, 西浦和男  
高島一郎, 森 善裕, 林外史英  
山田哲司, 中川正昭  
(石川県中消化器一般外科)  
林 守源(同 病理)

32. 亜区域切除にて治癒し得た H<sub>2</sub> 肝癌の1例

○澤 敏治, 八尾直志(井波厚生病院外科)  
泉 良平, 加藤真史(金大2外)  
杉浦 仁(金大2病理)

## 33. 肝切除後再発肝細胞癌に対する TAE 療法

○三井 毅, 三浦将司, 林 義信  
荒井理夫, 皆川真樹, 金 定基  
浅田康行, 飯田善郎, 黒田 譲  
藤沢正清(福井県済生会病院外科)  
宮山士朗, 井田正博(同 中放診断部)  
福岡賢一, 登谷大修, 田中延善  
(同 内科)

## 34. 外傷性肝破裂の1治験例

○田中松平, 金子芳夫, 林 裕之  
旭 敏秋, 吉田千尋(有松中央病院)  
座長 谷川允彦(福井医科大第2外科)

## 35. シネ胆道造影よりみた十二指腸乳頭部機能の検討(第1報)

○神野正博, 表 和彦, 秋本龍一  
(浅ノ川総合病院外科)

## 36. 胆道疾患における胆汁中アマラーゼ測定の意義

○高橋嘉彦, 嶋田 紘, 松葉 明  
新本修一, 大島俊哉, 土山智邦  
藤田秀春, 中川原儀三(福井医大1外)

## 37. 汎発生胆汁性腹膜炎をきたした急性無石胆嚢炎の2症例

○丸岡秀範, 村田修一, 池谷朋彦  
広瀬淳雄, 牛島 聡, 若狭林一郎

清崎克美(水見市民病院外科)

松井一裕, 北川正信(富山医薬大病理)

## 38. 胆嚢底部の adenomyoma に発生した上皮内腺癌の1例

○浅田康行, 三井 毅, 林 義信  
荒井理夫, 皆川真樹, 金 定基  
飯田善郎, 黒田 譲, 三浦将司  
藤沢正清(福井県済生会病院外科)  
小西二三男(金医大病理)

## 39. 胃切除後に発生した総胆管断端神経腫の1治験例

○岩上 栄, 高島一郎, 広瀬宏一  
花立史香, 片田正一, 西浦和男  
森 善裕, 林外史英, 山田哲司  
北川 晋, 中川正昭  
(石川県中消化器一般外科)  
島崎英樹(同 消化器内科)  
林 守源(同 病理)

## 40. 再切除し得た原発性肝癌の1例

○日野浩司, 鈴木修一郎, 黒木嘉人  
霜田光義, 白崎 功, 新井英樹  
桐山誠一, 阿部要一, 田沢賢次  
藤巻雅夫(富山医薬大2外)

## B 会場

座長 高島義光(福井赤十字病院呼吸器科)

## 1. 肺癌切除症例の検討

○守田万寿夫, 能登啓文, 中川禎二  
戸島雅宏, 三隅寛恭, 杉山善崇  
西谷 泰, 藤村光夫  
(富山県中呼吸器循環器外)  
三輪淳夫(同 病理)  
北川正信(富山医薬大病理)

## 2. 肺癌切除例におけるリンパ節転移状況

○小矢崎直博, 草島義徳  
(富山市民病院呼吸器外科)  
北川裕久, 宮田龍和, 嶋 裕一  
小西一朗, 広瀬禎介(同 外科)  
中村裕行, 水上陽真(同 呼吸器科)  
上田隆之, 杉原政美(同 放射線科)  
高柳宇立(同 病院)

## 3. 肺過誤腫の3例

一経皮的針穿刺吸引細胞診の適応と限界一

○小林弘明, 佐藤日出夫, 家接健一  
遠藤将光, 関 雅博, 木谷正樹  
(石川県中胸部心臓血管外)  
林 守源(同 病理)

- 谷本一夫 (金大医療短大)
4. Coin lesion を呈した肺アスペルギルス症の1例  
 ○山下良平, 川上和之, 道伝研司  
 九沢 豊, 中島久幸, 清原 薫  
 小杉光世, 小林 長  
 (市立砺波総合病院外科)  
 杉本立甫 (同 内科)  
 安念有声 (同 病理)
5. 肺アスペルギローマの外科治験例  
 ○古野利夫, 龍村俊樹, 山口敏夫  
 東出順治, 小山信二, 西出良一  
 辻本 優, 津田基晴, 杉山茂樹  
 笠島 学, 山本恵一 (富山医薬大1外)  
 水島 豊 (同 第1内科)  
 北川正信 (同 病理)  
 座長 笠島 学 (富山医科薬科大学第1外科)
6. 巨大前縦隔腫瘍の1例  
 ○美濃一博, 上山武史, 橋本英樹  
 東出慎治, 杉本 実, 山口敏之  
 辻本 優, 山本恵一 (富山医薬大1外)  
 北川正信 (同 病理)
7. 胸骨腫瘍として認めた myeloma の1症例  
 ○東出慎治, 龍村俊樹, 山口敏夫  
 古野利夫, 美濃一博, 津田基晴  
 山本恵一 (富山医薬大1外)  
 松井寿夫 (同 整形外科)  
 小泉富美朝 (同 病理)  
 山崎 肇 (厚生連糸魚川病院内科)
8. 慢性膿胸に対する筋肉弁充填術の経験  
 ○木元春生, 永井 晃, 松本 康  
 (富山赤十字病院心臓血管呼吸器外科)  
 辻口 大, 林 義信 (金大1外)
9. 緊張性気胸から気腹を生じた1例  
 ○清原 薫, 九沢 豊, 川上和之  
 道伝研司, 山下良平, 中島久幸  
 小杉光世, 小林 長 (市立砺波総合病院外科)  
 角田清志 (同 放射線科)  
 梅 博久 (同 内科)  
 座長 三崎拓郎 (金沢大学第1外科)
10. 心筋炎に続発した収縮性心膜炎の手術治療  
 ○小林孝一郎, 辻口 大, 浅井 徹  
 川筋道雄, 三崎拓郎, 岩 喬  
 (金大1外)  
 小西堅正, 竹田亮祐 (同 第2内科)
11. 出血性線維性心膜炎を合併した感染性心内膜炎に  
 対し, 活動期緊急手術により救命した1例  
 ○上坂孝彦, 佐々木正人, 森岡浩一  
 平松義則, 井隼彰夫, 千葉幸夫  
 村岡隆介 (福井医科大2外)
12. 心室中隔欠損症+右室二腔心の2成人例  
 ○家接健一, 関 雅博, 遠藤将光  
 木谷正樹, 小林弘明, 佐藤日出夫  
 能登 佐 (石川県中心臓血管外科)
13. 三尖弁閉鎖症術後に頻発発作を来した WPW 症  
 候群の1治験例  
 ○大竹裕志, 三崎拓郎, 渡辺 剛  
 坪田 誠, 向 歩, 岩 喬  
 (金大1外)
14. 自己輸血開心術症例の検討  
 ○森岡浩一, 上坂孝彦, 佐々木正人  
 平松義則, 井隼彰夫, 千葉幸夫  
 村岡隆介 (福井医科大2外)  
 座長 大中正光 (福井循環器病院外科)
15. De Bakey III 解離に対する治療経験  
 ○橋本英樹, 明元克司, 池谷朋彦  
 笠島 学, 浜中英樹, 湖東慶樹  
 鈴木 衛, 上山武史 (富山医薬大1外)
16. 胸骨縦切開下 Occlusion Catheter を用いた分離  
 体外循環法による弓部仮性大動脈瘤の1例  
 ○戸島雅宏, 藤村光夫, 西谷 泰  
 三隅寛恭, 杉山喜崇, 守田万寿夫  
 中川禎二, 能登啓文  
 (富山県中呼吸器循環器外科)
17. 遠隔期のグラフト閉塞により再手術を行った冠動  
 脈バイパス術症例の検討  
 ○金戸善之, 清水 健, 会田 博  
 坂本 滋, 白川尚哉  
 (金医大胸部心臓血管外)
18. 内膜剝離を行い冠動脈再健術を施行した1症例  
 ○竹村博文, 大中正光, 大橋博和  
 堤 泰史, 村上 晃, 有塚史郎  
 田中 孝 (福井循環器病院外科)  
 座長 松原純一 (金沢医科大学胸部心臓血管外科)
19. 下行胸部大動脈瘤術後の椎骨, 脳底動脈血行障害  
 の1例  
 ○明元克司, 富川正樹, 大場泰良  
 北沢慎次, 牧本充生, 高野 徹  
 横川雅康, 上山武史 (富山医薬大1外)
20. 閉再性動脈硬化症に対する in situ saphenous  
 vein bypass の経験  
 ○井隼彰夫, 森岡浩一, 平松義規  
 井上 弘, 高橋康嗣, 千葉幸夫

- 村岡隆介 (福井医科大2外)
21. 交換神経節切除術症例の検討  
 ○土屋秀次, 松原純一, 長末正巳  
 保坂浩史, 清水 健 (金医大胸部心臓血管外)
22. 腎癌の肝部下大静脈腫瘍塞栓症の1治験例  
 ○遠藤将光, 佐藤日出夫, 家接健一  
 関 雅博, 小林弘明, 木谷正樹  
 能登 佐 (石川県中胸部心臓血管外)  
 宮城徹三郎, 島村正喜, 江川雅之  
 (同 泌尿器科)  
 座長 津田昇志 (福井県立病院外科)
23. 小腸大量切除例の栄養管理  
 ○田中松平, 川浦幸光, 佐々木正寿  
 大村健二, 関戸伸明, 宗本義則  
 山脇 優, 長瀬典子, 石黒栄紀  
 村上 望, 小泉博志, 岩 喬  
 (金大1外)
24. 当科における腸間膜血管閉塞症の検討  
 ○高島吉浩, 細川 治, 太田安彦  
 松田一夫, 三崎明孝, 村北和広  
 中川公三, 武田孝之, 中泉治雄  
 谷川 裕, 森田信人, 渡辺国重  
 木谷栄一, 津田昇志, 山崎 信  
 (福井県立外科)  
 山道 昇 (同 病理)
25. 術中内視鏡にて確診し得た小腸海線状血管腫の1例  
 ○富田 寛, 山口明夫, 榎谷博孝  
 小野田秀樹, 八木雅夫, 泉 良平  
 小西孝司, 宮崎逸夫 (金大2外)  
 水上勇治 (同 中検病理)
26. 腸重積を来した転移性小腸腫瘍の1例  
 ○金 定基, 荒井理夫, 林 義信  
 皆川真樹, 三井 毅, 浅田康行  
 飯田善郎, 黒田 讓, 三浦将司  
 藤沢正清 (福井県済生会病院外科)
27. 大網裂孔ヘルニアの2治験例  
 ○高橋英雄, 平野 誠, 橘川弘勝  
 松 智彦, 斉藤 裕, 酒徳光明  
 龍沢俊彦 (厚生連高岡病院外科)
28. 当科における嵌頓ヘルニア治験例の検討  
 ○太田安彦, 渡辺国重, 松田一夫  
 三崎明孝, 村北和広, 細川 治  
 中川公三, 武田孝之, 中泉治雄  
 谷川 裕, 森田信人, 木谷栄一  
 津田昇志, 山崎 信 (福井県立外科)
- 山道 昇 (同 病理)
29. 80才以上高齢者大腸癌の検討  
 ○表 和彦, 神野正博, 秋本龍一  
 (浅ノ川総合病院外科)
30. 早期大腸癌症例の検討  
 ○福永 純, 桐山正人, 櫛引 健  
 坂田則昭, 佐久間寛, 喜多一郎  
 高田道明, 高島茂樹, 木南義男  
 (金医大一般消化器外科)
31. 診断に苦慮した直腸癌の1例  
 ○道伝研司, 清原 薫, 川上和之  
 山下良平, 中島久幸, 九沢 豊  
 小杉光世, 小林 長 (市立砺波総合外科)  
 荒川竜夫 (同 胃腸科)  
 角田清志 (同 放射線科)  
 安念有声 (同 病理)
32. Gant-三輪, Thiersch 法併用による直腸脱の手術  
 ○大場泰良, 東出慎治, 美濃一博  
 安田政実, 北沢慎次, 西出良一  
 古野利夫, 辻本 優, 浜中英樹  
 山口敏之, 津田基晴, 矢後 修  
 笠島 学, 山本恵一 (富山医薬大1外)
33. 魚骨の穿孔による肛門周囲膿瘍について  
 ○原 和人, 横山 隆, 古田和雄  
 (城北病院外科)
34. 当科における痔瘻術式の検討  
 ○飯田善郎, 林 義信, 荒井理夫  
 皆川真樹, 金 定基, 三井 毅  
 浅田康行, 黒田 讓, 三浦将司  
 藤沢正清 (福井県済生会病院外科)

## 第5会場 皮膚科分科会

日本皮膚科学会北陸地方会第329回例会

1. ヒルドイド軟膏による接触性皮膚炎の1例  
 ○長谷川義典, 松垣修一 (富山医薬大)
2. プフェキサマック外用剤による接触皮膚炎の1例  
 ○鈴木 薫, 下居佳代子 (金沢医大)  
 金原武司 (河北郡内灘町)
3. 当院におけるアトピー性皮膚炎の実態 (第3報)  
 ○大槻典男 (舞鶴共済)
4. UVB 照射が奏効した結節性痒疹の1例  
 ○能川昭夫, 筒井清広, 安井裕子  
 川島愛雄 (石川県立中央)  
 三木 甫 (金沢市)

5. 色素性痒疹の1例  
○田中武司 (金沢大)  
江口和夫 (小松市)
6. 好中球性紅斑  
○井田 充, 関 太輔 (富山医薬大)
7. 膝窩動脈瘤-趾の壊疽性病変を生じた1例  
○三井 徹, 大島茂人 (厚生連高岡)  
斎藤 裕 (同 外科)
8. Eosinophilic pustular folliculitis: 2例の報告  
○野村佳弘, 川原 繁, 高田 実  
(金沢大)
9. Lichen aureus の2例と偽診例1例  
○久保勝彦, 松本録一 (富山市民)
10. 口腔粘膜と爪に局限した扁平苔癬  
大津山實, 丸山友裕 (富山医薬大)
11. 筋病変 (腫瘤触知型) を伴ったサルコイドーシスの1例と無作為骨格筋生検の成績  
○鍛冶友昭, 中橋 猛 (富山県立中央)  
泉 三郎 (同 内科)  
三輪淳夫 (同 病理)
12. 骨格筋生検によるサルコイド結節検出成績  
○稲沖 真, 谷口 滋, 高田 実  
川原 繁, 服部邦之, 広根孝衛  
(金沢大)
13. 敗血疹: 2例の報告  
○服部邦之, 谷口 滋  
(金沢大)
14. 蜂刺症例  
○八町祐宏, 上田恵一, 丸尾 充  
青山文代, 高石公子, 鈴木裕至  
中島智子, 石黒和守, 磯松瑞穂  
石田久哉, 中川重光 (福井医大)
15. 副乳  
○山本善明, 福井米正 (黒部市民)
16. 福井医大における手足の色素性母斑の統計的観察  
○磯松瑞穂, 高石公子, 丸尾 充  
上田恵一 (福井医大)
17. Pilomatrixoma の1例  
○小林博人, 西尾賢昭 (金沢医大)  
金原武司 (河北郡内灘町)
18. Eccrine spiradenoma の1例  
○武田行正, 西尾賢昭, 鈴木薫 (金沢医大)
19. 汗器官腫瘍の1例  
高石公子, 青山文代, 上田恵一  
(福井医大)
20. ボーエン病  
○山岸雄二, 福井米正 (黒部市民)
21. 子宮頸癌の外陰転移の1例  
○工藤比等志, 米沢郁雄 (福井赤十字)
22. 転移性皮膚癌の2例  
○佐藤英敏, 熊谷武夫 (高岡市民)  
竹越国夫, 野口哲彦 (同 内科)
23. Lymphadenosis benigna cutis  
○中川重光, 高石公子, 上田恵一  
(福井医大)

## 第6会場 形成外科分科会

## 第32回 日本形成外科学会北陸地方会

1. デュプイトレン拘縮由来培養繊維芽細胞の電顕的観察  
○岩脇理佳, 安田幸雄, 石倉直敬  
塚田貞夫 (金沢医大形成)
2. 砺波総合病院形成外科でのマイクロサージャリー症例の検討  
○亀井康二, 上野輝夫 (砺波総合形成)
3. Hughes 変法による眼角部欠損の2再建例  
○荒井正雄, 太田真人 (福井県立形成)  
山本正樹 (石川県中形成)
4. 頬骨骨折  
- approach に関する工夫を中心として -  
○川上重彦, 関 時宏, 岡田忠彦  
塚田貞夫 (金沢医大形成)  
井出克樹 (富山労災形成)
5. 早期顎矯正治療の試み  
- 3歳児に対する上顎前方牽引の1例 -  
○西田明彦, 高田保之, 勝田 誠  
須佐美隆三 (金沢医大歯矯正)
6. 口蓋裂初回手術時の顎顔面形態  
○長谷田泰男 (厚生連高岡形成)  
塚田貞夫 (金沢医大形成)
7. Dorrance 法+pharyngeal pushback 法を用いた口蓋裂手術例  
○宮永章一, 塚田貞夫 (金沢医大形成)
8. フラッシュランブダイレーザーによる単純性血管腫の治療  
- 従来の治療法との比較 -  
○林 洋司, 小屋和子 (浅ノ川総合形成)
9. 慢性放射線潰瘍創でみられた耳下腺多形性腺腫  
○赤羽紀子, 吉川秀昭 (富山県中形成)
10. Warthin 腫瘍の1例  
○小林伸之, 置塩良政 (富山市民形成)
11. 脂肪腫の統計的考察



- 加田顕秀, 長谷田泰男 (厚生連高岡形成)
12. 腋窩乳腺症の4例  
○池田和隆, 山本正樹, 小島正樹  
川中隆雄 (石川県中形成)
13. 外傷性全母指欠損に対する母指化手術例  
○小島政嗣, 山本正樹, 川中隆雄  
池田和隆 (石川県中形成)
14. 胎生期遺残組織による臍奇形の2例  
○太田真人, 荒井正雄 (福井県立形成)  
小林徹治 (同 泌尿器)
15. 私の行っている包茎手術  
—河崎屋式変法—  
。暇 稀吉, 河崎屋三郎 (金沢市)
16. 筋膜下 expansion による下腿再建例  
○島津保夫, 桜井伴子, 北山吉明  
塚田貞夫 (金沢医大形成)
17. 形成外科領域における logotherapy  
第VIII報—いわゆる神経質な患者に対する私の行  
っている対応のコツについて  
○暇 稀吉 (金沢市)

## 第7会場 臨床口腔外科分科会

## 第8回 臨床口腔外科分科会

## 一般演題

- 座長 山本康一 (富山医薬大)
1. 福井医科大学附属病院歯科口腔外科における外来患者の臨床集計的観察  
○小笠原利行, 玉井 学, 西出直人  
都築雅弘, 伊東俊祐, 林 解平  
人見権次郎, 石井保雄 (福井医大)
2. 福井医科大学附属病院歯科口腔外科における入院患者の臨床集計的観察  
○西出直人, 都築雅弘, 小笠原利行  
玉井 学, 伊東俊祐, 林 解平  
人見権次郎, 石井保雄 (福井医大)
3. 国立金沢病院歯科口腔外科における最近3年間の入院患者の臨床統計的観察  
○藤元 毅, 中尾治郎 (国立金沢病院)
4. 福井医科大学附属病院歯科口腔外科における顎顔面骨折入院患者の臨床集計的観察  
都築雅弘, 小笠原利行, 玉井 学  
西出直人, 伊東俊祐, 林 解平  
人見権次郎, 石井保雄 (福井医大)  
座長 船本長一朗 (金沢医大)
5. 歯牙腫により惹起されたとされる濾胞性歯嚢胞の1例

- 大江由香子, 湯口正治, 寺島龍一  
永森 司, 小竹 彌, 萬羽賀津雄  
眞館藤夫, 岩井正行, 山本康一  
古田 勲 (富山医薬大)
6. まれな濾胞性歯嚢胞の1例  
○塩村 太, 船本長一朗, 竹田慶子  
高沢一良 (金沢医大)
7. 石灰化歯原性嚢胞の1例  
○織田武吉, 藤元栄輔, 中川清昌  
(金沢大)
8. 骨形成性エプーリスの1例  
○加藤隆三, 野尻孝司, 藤元栄輔  
中川清昌 (金沢大)  
座長 中川清昌 (金沢大)
9. 舌に発生した Granular cell tumor の1例  
○田中真也 (市立小松総合)
10. 口蓋部に発生した極めて稀なオンコサイトーマの1例  
○奥田康生, 萬羽賀津雄, 澤田敏晴  
山内浅則, 杉本裕史, 眞館藤夫  
岩井正行, 山本康一, 古田 勲  
(富山医薬大)
11. 小児に発生した神経性腫瘍の2例  
○岩井正博, 藤元栄輔, 中川清昌  
(金沢大)
12. 唾液腺腫瘍の4例  
○坂下英明, 宮田 勝 (石川県中)  
林 守源 (同 病理)  
東野純也 (東野病院)
- 教育講演  
座長 石井保雄 (分科会会長)  
「アパタイトインプラントの歯科口腔外科領域への応用」  
富山医科薬科大学歯科口腔外科学講座  
教授 古田 勲  
座長 人見権次郎 (福井医大)
13. 受傷後1ヶ月後に見い出された頬部異物の1例  
○折本 聡, 大木淳一, 梶村悦朗  
佐渡忠司, 萬羽賀津雄, 眞館藤夫  
岩井正行, 山本康一, 古田 勲  
(富山医薬大)
14. 顎顔面骨骨折におけるミニプレートの使用経験  
○宮田 勝, 坂下英明 (石川県中)  
東野純也 (東野病院)  
座長 須佐美隆三 (金沢医大矯正)

15. 舌縮小術と Le Fort I 骨切りによる上顎上方移動術を行った開咬症例  
 ○高田保之, 窪田道男, 中川 真  
 須佐美隆三 (金沢医大矯正)  
 川上重彦 (同 形成) 久田欣一 (金沢大核)  
 渡辺洋宇 (同 1 外)  
 関 宏恭 (金沢医大放)  
 高山輝彦 (金沢医大短)
16. 口唇口蓋裂患者の矯正補綴治療例  
 ○下村隆史, 香村正治, 出村 昇  
 須佐美隆三 (金沢医大矯正)  
 座長 塩田 覚 (金沢医大) 6. 骨スキャンが診断のきっかけとなった原発性副甲  
 状腺機能亢進症の 1 例  
 ○多田 明, 高橋志郎, 立野育郎  
 (国立金沢病院放)  
 齋藤弥章 (同 内科)  
 勝見哲郎 (同 泌尿器)
17. 顎関節 retrodiscal pad における上下二層の組織  
 様態  
 ○林 解平, 伊東俊祐, 印牧康祐  
 石井保雄 (福井医大) 7. 日立製 0.2 T 永久磁石方式 MR 装置 MRP-20 の使  
 用経験  
 ○古本尚文, 柿下正雄 (富山医薬大放)  
 杉野 實, 沼田正信, 辻田昌美  
 (杉野脳神経外科)
18. 20-Methylcholanthrene により誘発したマウス顎  
 下腺腫瘍培養細胞に関する研究  
 ○南 康英, 大平三四郎, 戸部晴美  
 角田 真, 塩田 覚 (金沢医大) 8. 脊椎, 脊髓疾患における Gradient echo imagi-  
 ng の有用性  
 ○荒井和徳, 蒲田敏文, 亀山富明  
 角谷真澄, 鈴木正行, 高島 力  
 (金沢大放)
- 第 8 会場 放射線科・核医学科分科会**
- 一般演題**
1. 新しい腫瘍マーカー CA-130 の臨床的検討  
 ○中島鉄夫, 中村立子, 松下照雄  
 ビライ・ジャーナル, 周藤裕治, 外山貴士  
 林 信成, 小鳥輝男, 石井 靖  
 (福井医大放) 9. 臍頭部癌における MRI の有用性  
 ○横田 啓, 山之内梅節, 大津留健  
 松田昌夫, 三矢哲英, 宝田 陽  
 興村哲郎, 山本 達 (金沢医大放)
2. 日常核医学診療への三次元画像診断の応用  
 宮崎吉春, 塩崎 潤, 井上 寿  
 藤岡正彦, 伊藤 広, 宮永盛郎  
 (能登総合 RI 部) 10. mucoïd impaction の MRI  
 ○松本雅子, 上村良一, 西嶋博司  
 角谷真澄, 齋藤泰雄, 高島 力  
 (金沢大放)
3. 慢性腎不全に併発した腰椎圧迫骨折の 1 例: 骨 X  
 線と骨密度の比較  
 ○油野民雄, 谷口 充 (金沢大核) 11. MLF syndrome の MRI  
 ○上田和彦, 鈴木正行, 角谷真澄  
 高島 力 (金沢大放)  
 井手芳彦, 高守正治 (同 神経内科)
4. 尿毒症患者における異所性石灰沈着の骨スキャン  
 ○高瀬秀子, 金沢裕之, 釘抜康明  
 玉村裕保, 関 宏恭, 東光太郎  
 利波久雄, 興村哲郎, 山本 達  
 (金沢医大放) 12. 副甲状腺腫の MRI  
 -アルコール注入前後の MRI-  
 ○木村浩彦, 周藤裕治, 外山貴士  
 木村一秀, 佐久間肇, 岩崎俊子  
 林 信成, 小鳥輝男, 石井 靖  
 (福井医大放)  
 酒井哲夫 (同 3 内)  
 中村直博, 岡田謙一郎 (同 泌尿器)
5. 原発性肺癌が疑われた患者における Tl-201  
 Single Photon Emission CT による診断  
 ○利波紀久, 秀毛範至, 川畑鈴佳  
 横山邦彦, 絹谷清剛, 渡辺直人  
 瀬戸幹人, 道岸隆敏, 油野民雄 13. TAE が著効した巨大肝細胞癌の 1 切除例  
 ○小林 健 (富山赤十字)  
 吉田 誠, 荒木一郎, 大石 誠  
 品川俊男 (同 内科)  
 魚津幸蔵, 関川 博 (同 外科)
14. 血栓溶解術併用 PTA にて再開通した大腿動脈閉

## 塞症の1例

- 木本達哉, 河上 聡, 野口正人  
(福井赤十字放)
- 野尻正憲 (同 整形)

## 15. CT 画像が有用であった異型肺炎の1例

- 河上 聡, 木本達哉, 野口正人  
(福井赤十字放)
- 武藤 信, 長谷光雄, 高島義光  
(同 呼科)

第9会場 内科分科会  
第10会場

## 第140回 日本内科学会北陸地方会

## A会場

座長 田中延善 (福井県済生会病院内科)

## 1. 肝血管肉腫の1剖検例

- 羽場利博, 藤田 学, 辰巳 靖  
明石宣博, 山崎義龜与, 得田与夫  
(福井県立病院内科)
- 土井下健二 (同 病理)
- 中沼安二 (金大第2病理)

## 2. 4年間で経験した原発性肝癌の臨床的検討

- 岡田和彦, 竹越国夫, 炭谷哲二  
太田正之, 遠山龍彦, 奥田洽爾  
(高岡市民病院内科)
- 松木伸夫, 巴陵宣彦, 可西右使  
(同 外科)

広瀬仁一郎 (同 放射線科)

## 3. 短期間で軽快したびまん性肉芽腫性肝炎の1例

- 大塚 実, 仁木健雄, 三宅 靖  
西村浩一, 斉藤元泰, 塩原信太郎  
浜田誠人, 立村森男, 森永健市  
(浅ノ川総合病院内科)

## 4. 食道静脈瘤硬化療法後に急性腎不全を併発した肝硬変症の1例

- 渡辺弘之, 松田直人, 河上浩康  
太田英樹, 里村吉威, 元雄良治  
竹森康弘, 岡井 高, 澤武紀雄  
(金沢大学がん研究所内科)

## 5. 腫瘍濃染が不明瞭であった肝硬変非合併単発性肝細胞癌の1例

- 春木克夫, 矢島 真, 柴山真介  
村本弘昭, 吉村 陽, 水毛生直則  
織田邦夫 (社会保険鳴和総合病院内科)
- 滝川 豊, 橋本之方 (同 外科)
- 長東秀一 (同 放射線科)

座長 中井継彦 (福井医科大学第3内科)

## 6. 家族性高コレステロール血症の冠動脈病変に対する LDL アフェレーシスの効果

- 藤田 一, 黒田昌宏, 小西堅正  
水野清雄, 文字 直, 楠 憲夫  
品川俊男 (富山赤十字病院内科)
- 馬淵 宏, 竹田亮祐 (金大第2内科)

## 7. 遺伝子解析で診断したホモ接合体家族性高コレステロール血症 (FH-Tonami-2) の2家系3例

- 梶波康二, 宇野欣秀, 稲津明広  
藤田 一, 武田三昭, 伊藤英章  
小泉順二, 馬淵 宏, 竹田亮祐  
(金大第2内科)

太田正之 (高岡市民病院内科)

## 8. ACTH 単独欠損症に正レニン性低アルドステロン症を合併した1例

- 南 陸男, 青柳直樹, 宮永 健  
大屋栄一, 岸田 繁, 中井継彦  
宮保 進 (福井医科大学第3内科)

## 9. 粘液水腫性昏睡の1例

- 山川 治, 西村泰行, 家城恭彦  
荻野英朗, 下田 敦, 小松義和  
岩田 章, 長田清明 (金沢赤十字病院内科)
- 小林健一 (金大第1内科)

## 10. ステロイドパルス療法が著効を示したルーブスクリーゼの1例

- 石田陽一, 荒井志郎, 黒崎正夫  
石田礼二 (富山市民病院内科)

座長 得田与夫 (福井県立病院内科)

## 11. 血尿を主体とした続発性アミロイドーシスの1症例

- 安井正英, 四位例清, 竹田正廣  
平川知之, 伊藤利之, 北野博嗣  
泊 康男 (北陸中央病院内科)
- 紺井一郎 (同 第2内科)
- 北川正信 (富山医薬大第1病理)
- 山本 達 (金沢医大放射線科)

## 12. Rhabdomyolysis の2例

- 森下英理子, 伊藤裕二, 梶波康二  
榊田昌之助, 森 清男 (芳珠記念病院内科)

## 13. 階段からの転落後発症した rhabdomyolysis-induced acute renal failure の1例

- 木下 勝, 山本 悟, 大野健次  
佐藤 清 (城北病院内科)

## 14. 難治性皮膚潰瘍に対しγ-グロブリン大量投与が有効であった強皮症の1例

- 河合泰一, 今村 信, 加藤 大  
清水啓司, 清水寛正, 小川一也  
李 鐘大, 上田孝典, 原 晃  
中村 徹 (福井医大第1内科)
15. 抗 ENA 抗体高値陽性を示した, 結節性多発動脈  
炎の1症例  
○多喜博文, 鈴木英彦, 加藤弘巳  
矢野三郎 (富山医大第1内科)  
飯田博行 (同 第2内科)  
若木邦彦 (同 第2病理)  
泉 三郎 (富山県立中央病院内科)  
座長 李 鐘大 (福井医科大学第1内科)
16. 急性腎盂腎炎を契機に発見された腹部大動脈瘤周  
囲線維症の1例  
○真智俊彦, 宮森弘年, 齊藤靖人  
(恵寿総合病院内科)  
笹川真人 (同 泌尿器科)  
鈴木正行 (金大放射線科)
17. 虚血性心疾患の診断に関する Holter 心電図の誘  
導部位について  
— 体表表面電位図からの検討 —  
○広野正明, 横井宏佳, 前野孝治  
久保田幸次, 高田重男, 池田孝之  
服部 信 (金大第1内科)
18. 心拡大, 心嚢水貯留を認めた CREST 症候群の1  
例  
○本定 晃, 小市勝之, 酒井泰征  
(社会保険勝山病院内科)  
黒田満彦 (福井医大中央検査部)  
杉原洋行 (同 病理)
19. 定期的住民検診にて房室ブロックの進行を診断  
し, 重篤な症状の発現前に治療し得た1例  
○岡本清也, 木倉敏彦, 大江 浩  
根井仁一 (城端厚生病院内科)  
清崎浩一, 古川幸夫, 寺中正昭  
(同 外科)
- B会場**  
座長 内田 三千彦 (福井医科大学第1内科)
1. PROLYMPHOCYTIC LEUKEMIA の1例  
○山口正木, 中条達也, 井野秀一  
真智俊彦, 四蔵直人, 上田幹夫  
宮森弘年, 斎藤靖人 (恵寿総合病院内科)  
大竹茂樹 (金大第3内科)
2. LGL (large granular lymphocyte) leukemia の1  
例  
○上田幹夫, 榊田昌之助, 梶波康二  
森 清男 (芳珠記念病院内科)  
中条達也, 森 孝夫, 松田 保  
(金大第3内科)  
片山啓太, 小泉晶一, 立浪朋子  
(金大小児科)
3. 胸壁腫瘤にて再発した AML の1例  
○山崎国男, 元尾南洋, 市原和俊  
山崎 徹, 井上恭一, 佐々木博  
(富山医科薬科大第3内科)  
桑原卓美 (同 中央検査部)
4. 血清 gamma-interferon の高値を認めた重急性壞  
死性リンパ節炎の1例  
○平山幹生, 武藤多津郎, 中崎繁明  
得田 彰, 道鎮正規, 中永昌夫  
佐藤富貴子, 郡 大裕, 藤木典生  
(福井医科大学第2内科)  
中尾直樹 (愛知医科大学第4内科)
5. 多発性脾膿瘍を合併し, 摘脾を実施した急性白血  
病 (FAB-M2) の1例  
○仁木健雄, 塩原信太郎, 大塚 実  
鈴木志津子, 北川義展, 立村森男  
森永健一 (浅ノ川総合病院内科)  
神野正博, 秋本龍一 (同 外科)  
座長 十倉保宣 (国立鯖江病院内科)
6. インスリン, グルカゴン, ガストリンの高値を認  
めた膝ラ氏島腫瘍の1例  
○北川浩文, 白田和生, 杉本尚樹  
安部俊男, 桜井 登, 沢田大成  
更田康彦 (金沢市立病院内科)  
飯田茂穂 (同 外科)  
大井章志, 上田善道 (金大第1病理)
7. DIC で初発し, micro-angiopathic hemolytic  
anemia を合併した胃癌の1例  
○真智俊彦, 山本 誠, 稲津哲也  
大西定司, 越野雄祐, 嶋田佳文  
加藤浩司 (福井厚生病院内科)  
白石泰三 (福井医科大学第2病理)
8. op'-DDD と tegafur・uracil の併用療法を試みた  
副腎癌の1剖検例  
○瀬田 孝, 藤井寿美枝, 三輪梅夫  
大塚他喜雄 (石川県立中央病院内科)  
柳瀬晴也, 篠崎公秀 (北陸病院内科)
9. フェニトイン投与中にみられたリンパ節腫脹の1  
例  
○岡藤和博, 潮木保幸, 柴田 修

- 福岡賢一, 登谷大修, 田中延善  
中屋昭次郎, 柳 碩也  
(福岡県済生会病院内科)  
吉田 喬 (金大第3内科)
10. 糖尿病の経過中にネフローゼ症候群, 急性腎不全  
さらには ARDS をきたした1剖検例  
○臼田里香, 大野秀彰, 内藤毅郎  
野田隆志, 竹森康弘, 神保正樹  
野田八嗣, 山崎隆吉, 太田五六  
(富山労災病院内科)  
座長 北尾 武 (国立療養所北潟病院内科)
11. 北潟病院に於ける糖尿病合併結核患者の検討  
○石井 陽, 土屋晴生, 北 智子  
中崎繁明, 上野良樹, 濱田 明  
谷井淑夫, 北尾 武  
(国立療養所北潟病院内科)
12. 肺動脈血栓による肺高血圧症に対して血栓摘除術  
を行った1例  
○松下重人, 尾山光一, 八木伸治  
木田 寛, 杉岡五郎 (国立金沢病院内科)  
川筋道雄, 岩 喬 (金大第1外科)
13. 肺胆汁塞栓の1剖検例  
○高嶋清次, 林 茂, 陳 志栄  
平井圭彦, 今村順記, 齋藤善蔵  
(新湊市民病院内科)  
大戸 司, 向 仁一 (同 外科)  
源 利成, 岡田仁克 (金大第1病理)
14. 綿花様陰影を呈したサルコイドーシスの2例  
○堀井広之, 石垣昌伸, 向坂喜湖  
山之内菊香, 桜井 滋, 松田正史  
高瀬恵一郎, 北川駿介, 大谷信男  
(金医大呼吸器内科)  
小西二三男 (金医大第1病理)
15. 当院における在宅酸素療法の現況  
○松沼恭一, 中村 暁, 中村勇一  
村田義治, 藤岡正彦, 村本信吾  
(公立能登総合病院内科)  
座長 平山幹生 (福井医科大学第2内科)
16. Myoclonus を主徴とした脳幹梗塞の1例  
○吉川弘明, 澤 弥生, 坂戸俊一  
松原四郎, 高守正治 (金大神経内科)
17. 右椎骨動脈の硬化性変化によって中枢性の睡眠時  
無呼吸と覚醒時頻呼吸を呈した1例  
○山崎雅英, 朝倉英策, 藤村政樹  
吉田 喬, 松田 保 (金大第3内科)  
古田寿一 (同 精神科)
18. 末梢神経障害を併った polyclonal Gammopathy  
の1例  
○炭谷哲二, 遠山龍彦, 川田純也  
竹越国雄, 太田正之, 川野充弘  
奥田治爾 (高岡市民病院内科)
19. 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) を併った皮膚  
筋炎の1剖検例  
○供田文宏, 岡部源一, 安本耕太郎  
泉野 潔, 高田正信, 飯田博行  
篠山重威 (富山医科薬科大学第2内科)  
野田 誠, 北川正信 (同 第1病理)
20. 両側反回神経麻痺を初発とし運動優位に多発性脳  
神経麻痺を呈した1例  
○小島久典, 吉長知史, 内山伸二  
(石川県立中央病院内科)  
佐藤達宏 (同 耳鼻咽喉科)

## 第11会場 耳鼻咽喉科分科会

日耳鼻北陸地方部会連合会第250回例会

## 一般演題

1. 脳損傷による言語障害患者の統計的観察  
○野尻博美, 能登谷晶子, 鈴木重忠  
古川 仞, 宮崎為夫, 梅田良三  
(金沢大)
2. 保存的鼓膜穿孔閉鎖術と鼓室形成術I型の検討  
○斉藤武久, 齋藤 等, 涌井慎哉  
岩城詠子 (福井医大)  
真鍋恭弘 (湖北総合)
3. 卵円窓欠損症例の手術経験  
○荒木伸彦, 山下公一, 相野田紀子  
佐々木周興, 松井 都, 宮内博史  
(金沢医大)
4. 中耳腔内に内頸静脈が露出していた症例  
○角田篤信, 山下公一, 宮崎 巨  
松平登志正 (金沢医大)
5. 体性感覚検査の情報処理システム  
(Equitest system) の実際  
○浅井正嗣, 渡辺行雄, 小林英人  
赤萩勝一, 水越鉄理, 川崎 匡  
(富山医薬大)
6. 第II期顕性咽頭梅毒の1例  
加藤千維子, 古川 仞 (金沢大)  
梅田千弘 (辰口芳珠記念病院)
7. BAR 療法が著効を示した舌癌の1例  
○大角隆男, 石丸 正, 豊田 務  
(厚生連高岡)
8. 下咽頭・頸部食道腫瘍のMRI診断の意義

- 五十嵐良和, 中川 肇, 大橋直樹  
渡辺行雄 (富山医薬大)

## 9. 両側木村氏病の1治験例

- 久保富隆, 斎藤 等, 坂下勤武  
坪川俊仁 (福井医大)

## 10. 最近経験した耳下腺腫瘍33例について

- 伊藤真人, 梶田 耕, 石川 滋  
滝元 徹, 梅田良三 (金沢大)

## 11. 気管孔狭窄に対する開大術の試案

- 豊田 務, 大角隆男, 石丸 正  
(厚生連高岡)

## 12. 上皮小体機能亢進症の手術治療経過

- 鹿野佳子, 斎藤 等, 坂下勤武  
坪川俊仁 (福井医大)

## 第12会場 麻酔科分科会

## 第43回 日本麻酔学会北陸地方会

座長 池田一雄 金沢医科大学麻酔科

## 1. 福井医科大学病院5年間の麻酔科管理手術症例の検討—マークカードリーダーを使用して—

- 坪田恭子, 川上浩文, 藤林哲男  
高波千栄美, 高橋光太郎, 後藤幸生  
(福井医大麻酔科)

## 2. 術前評価としてのリスクファクター項目の検討

- 神谷和男, 成瀬隆倫, 釈永清志  
林 睦子, 久世照五, 伊藤祐輔  
(富山医薬大麻酔科)

## 3. 富山県における急性薬物中毒の実情

—アンケート調査より—

- 岩城久美, 広田弘毅, 中西拓郎  
(富山市民病院麻酔科)

## 4. 反復エトレン麻酔と肝機能

- 岸槌進次郎, 紫藤明美, 元塚朗子  
(国立金沢病院麻酔科)

## 5. 新しい鎮痛薬セグペインを用いたNLA変法麻酔

- 高倉 康, 原田 純, 麻生佳津子  
藤林哲男, 川上浩文, 後藤幸生  
(福井医大麻酔科)

## 6. 配偶子卵管内移入術(GIFT)の麻酔経験

- 大桑正名, 松田知之, 太田 淳  
田辺 毅, 城崎彦一郎 (福井赤十字病院麻酔科)  
西 修, 山田 良 (同 産婦人科)  
青野 允, 森 秀麿 (金沢医大麻酔科)

座長 佐藤根敏彦 富山医薬大手術部

## 7. 麻酔導入後気管支痙攣が発生した1症例

- 片岡久範, 井上智子 (富山労災病院麻酔科)

山元康徳, 榎田康彦, 浅地 直

吉田 豊, 村上誠一 (金大麻酔科)

## 8. Thiamylal投与によりアナフィラキシー様ショックを生じた1症例

- 岡宗真一郎, 池田一雄, 海老原聡  
三浦淳司, 青野 允, 森 秀麿  
(金医大麻酔科)

## 9. 逆行ガイドとファイバースコープの組み合わせによって気管内挿管を行った挿管困難症の1例

- 松本泰作, 小林宏充, 榎田康彦  
山本 健, 村上誠一 (金大麻酔科)

## 10. 気管内挿管時脱落した歯牙が気道内異物となつた1症例

- 示野勝己, 浜谷和雄  
(石川県立中央病院麻酔科)

## 11. 巨大卵巣嚢腫の麻酔経験

- 二上 昭, 浜谷和雄

(石川県立中央病院麻酔科)

遠山一喜 (高岡市民病院麻酔科)

座長 樋口昭子 富山県立中央病院麻酔科

## 12. 褐色細胞腫摘出術の麻酔経験

- 金丸聡人, 池田一雄, 青野 允  
森 秀麿 (金医大麻酔科)

13. プロスタグランディンE<sub>1</sub>による褐色細胞腫の麻酔管理

- 丹羽真理子, 坪田恭子, 原田 純  
高倉 康, 中嶋一雄, 後藤幸生  
(福井医大麻酔科)

## 14. 甲状腺機能亢進症患者の緊急手術の麻酔

- 森 一朗, 滝 康則, 石田 浩  
野村俊之, 上田隆夫 (福井県立病院麻酔科)

## 15. 経尿道的前立腺摘除術中に発生した水中毒の2例

- 林 道子, 山本 健, 小林 勉  
村上誠一 (金大麻酔科)

## 16. 鼓室形成術と利尿

- 紫藤明美, 岸槌進次郎, 元塚朗子  
(国立金沢病院麻酔科)

座長 浜谷和雄 石川県立中央病院麻酔科

## 17. 筋弛緩モニター用トランスデューサ

(Acceleration Transducer)の試用経験

- 榎田康彦, 杉本祐司, 井上智子  
東藤義公, 小林 勉, 村上誠一  
(金大麻酔科)

## 18. 全自動pH/血液ガス電解質分析器

(CORNING288)の使用経験

- 堀 真澄 (富山医薬大救急部)  
増田 明, 伊藤祐輔 (同 麻酔科)  
中丸勝人 (同 手術部)
19. 成形ソーダライムの発塵について  
○浦野博秀 (福井医大手術部)
20. 各種回路におけるバック内圧の検討  
○森川 茂, 渋谷伸子, 山崎光章  
久世照五, 伊藤祐輔 (富山医薬大麻酔科)  
高道昭一 (同 手術部)
21. 酢酸代謝検討のための [ $^{14}\text{C}$ ]-酢酸の測定法について  
○山本昌子, 久世照五, 平井康子  
伊藤祐輔 (富山医薬大麻酔科)  
宮原龍郎, 狐塚 寛  
(同 薬学部臨床分析学)  
座長 原田 純 福井医科大学麻酔科
22. 体液管理に難渋した重症呼吸不全の1例  
○窪 秀之, 樋口昭子  
(富山県立中央病院麻酔科)  
北川和久, 加納美樹子, 竹下 元  
(同 耳鼻咽喉科)
23. S-G ベースポート・カテーテルのベーシングにより術後の完全房室ブロックを処置しえた1例  
○高橋麗子, 宮腰英和, 佐伯善機  
(厚生連高岡病院麻酔科)
24. ペースメーカー (DDD) 作動下の患者に対する ESWL の麻酔経験  
○松田富雄, 安原真理, 青野 允  
森 秀麿 (金医大麻酔科)  
坂本 滋 (同 胸部外科)  
卞 在和, 津川龍三 (同 泌尿器科)
25. 人工骨頭再置換術後に生じた遷延性出血傾向の1症例  
○広田弘毅, 岩城久美, 中西拓郎  
(富山市民病院麻酔科)  
中村琢哉, 増山 茂, 天谷信二郎  
手井喜久男 (同 整形外科)  
座長 山本 健 金沢大学麻酔科
26. ペインクリニックにおける皮膚温度インジケータの使用経験  
○渋谷伸子, 増田 明, 伊藤祐輔  
(富山医薬大麻酔科)
27. サーモグラフィ (INF-201 U) を用いた寒冷血管反応の評価  
○元塚雅也, 東藤義公, 廣田幸次郎  
小林 勉, 村上誠一 (金大麻酔科)

28. 内臓神経ブロック時における造影所見の解析  
○生垣 正, 山田秀治, 亀田 勉  
(市立砺波病院麻酔科)  
村上誠一 (金大麻酔科)
29. 高圧酸素療法下の耳痛とティンパノグラムとの関係  
○久原英範, 増田 明, 渋谷伸子  
伊藤祐輔 (富山医薬大麻酔科)  
堀 真澄 (同 救急部)

## 第13会場 脳神経外科分科会

## 第26回 北陸脳神経外科集談会

座長 遠藤俊郎 (富山医科薬科大学)

1. 脳動脈瘤急性期手術  
○黒瀬輝彦 (鳴和総合病院脳神経外科)  
島 利夫 (島脳神経外科医院)
- くも膜下出血後3日以内に手術を施行した破裂脳動脈瘤55症例のうち73%が社会復帰した。予後不良因子は Hunt & Hess neurological grade V と血管れん縮による delayed ischemia であった。今回、17例の delayed ischemia を検討した結果、術中血腫除去率の低下、術前 CT SAH grade の悪化と共に delayed ischemia の発生率が増えた。術中、血腫除去が良好である程、volume therapy の効果が得られた。delayed ischemia のうち65%が社会復帰した。
- 手術成績向上のためには、volume therapy の効果を上げることであり、そのためには術中、可及的に血腫を除去すること、delayed ischemia 発生前に、あらかじめ normovolemia にしておくこと、volume therapy の開始を発症後早期に行うことが重要と考えられた。
2. くも膜下出血重症例の検討  
○冨子達史, 倉内 学  
(高岡市民病院脳神経外科)
- くも膜下出血発症から来院迄3時間以内の Hunt Kosnik grade IV, V の41例を対象とした: CT 所見では、Fisher の group 3, 4 が殆どであった。クリッピング手術21例の内、5例が good, 16例が poor result. V-P シェント1例は good, 脳室体外ドレーナージの6例及び非手術13例は dead. 予後良好例には、早期に症状が改善したもの及び肺水腫、急性水頭症の治療で良転したものがあつた。又11時間後に grade がIVになり良好な結果を得た例があつた。予後不良例の主な原因は、血管れん縮7例、脳内血腫が5例と多かつた。又65才以上が半数の8例を占めた。重症くも膜下出血

に対してまず症状悪化因子を除き少なくとも grade IV まで期待し、かつせいぜい70才迄が手術適応と考えている。

### 3. 過去5年間に当院で経験してクモ膜下出血で発症した後頭蓋窩動脈瘤症例

○寺林 征, 伊藤 靖, 小澤常德  
斎藤明彦, 杉山義昭  
(富山県立中央病院脳神経外科)

後頭蓋窩クモ膜下出血症例は7例あった。

種々の問題のため急性期手術を避け、慢性期に直達手術した3例(VA-union, VA-dissect, BA-AICAの各1例)では、手術を安全に行えた。VA-PICA 動脈瘤3例のうち、急性期に手術をした2例は再出血で失い、他の1例はDay 1に回復傾向を示し、直達手術により社会復帰した。VA-PICA 動脈瘤以外には急性期直達手術を行った経験はない。発症後6時間以内に施行した血管造影中に、再出血し、死亡した症例が1例ある(PC-post, Choroid)。

### 4. 硬膜下血腫で発症した左中大脳動脈瘤の1例

○飯田隆昭, 佐藤秀次, 伊東正太郎  
梅森 勉, 鬼塚圭一郎(金沢脳神経外科病院)

くも膜下出血を伴わず、急性硬膜下血腫のみで発症した中大脳動脈瘤の破裂例を経験したので報告する。症例は39才の女性。昭和62年2月22日外傷などの誘引なく就寝直後に突然激しい頭痛と嘔吐が出現。入院時神経学的所見は正常。CT, MRIで、左前頭側頭部に薄い硬膜下血腫が認められたが、くも膜下出血はなかった。左頸動脈撮影で、左中大脳動脈分岐部に下向きの囊状動脈瘤(8×4mm)が認められ、脳動脈瘤クリッピング術と硬膜下血腫除去術を施行した。手術所見でも、くも膜下出血はなかった。直視下には脳動脈瘤とくも膜の癒着の有無は確認しなかったが、くも膜下出血を伴わず硬膜下血腫のみ形成された機序は、脳動脈瘤嚢部とくも膜が癒着しており、この癒着部が破綻し直接硬膜下腔に出血したものと推察した。

座長 能崎純一(公立加賀中央病院)

### 5. 片頭痛を伴った未破裂動脈瘤の2例

○勝村浩敏, 久保田鉄也, 半田裕二  
古林秀則, 林 實  
(福井医科大学脳神経外科)

眼窩部の片頭痛様の痛みを認めた未破裂脳動脈瘤の2例を報告する。

症例I. 37才, 女性。6年前より月経時に拍動性の

痛みを左眼窩部より左前頭, 側頭部に認めていた。脳血管撮影にて左後大脳動脈P<sub>1</sub>部に直径20mmの動脈瘤を認めた。動脈瘤クリッピングを行い、痛みは消失した。

症例II. 50才, 女性。3年前より左右眼窩部痛を認め、内服にて痛みは消失していた。脳血管撮影にて直径5mmの左眼動脈瘤を認めた。動脈瘤クリッピングを行い、痛みは消失した。

症例Iにおける痛みの原因として血管の痛覚感受性部位よりの放散痛, 症例IIでは、硬膜の痛覚感受性部位よりの放散痛が疑われた。

未破裂脳動脈瘤の症状の一つとして片頭痛様の痛みの重要性を再確認した。

### 6. 多発性静脈血管腫の1例

○能崎純一, 廣瀬敏士  
(公立加賀中央病院脳神経外科)  
島崎真人(同 眼科)

脳静脈還流異常に眼窩内静脈瘤, 脳内静脈瘤を伴った34才女性の症例。

主訴及び所見; 右眼球間欠的突出, 前額部の拡大した静脈性, 皮下腫瘍(cavernous angioma)。

家族歴; 異常なし。

CAG; 両側ともに動脈相に異常なし。静脈相で、右前頭蓋底に静脈瘤を、右側頭に拡張した静脈の集積を認める。両側でmedullary veinが描出され、脳表の静脈は、主に下矢状洞へ、左は一部頭蓋外へ流れる。眼静脈造影では眼窩内静脈瘤が見られた。

Low pressure systemに伴う脳静脈瘤のnatural historyは不明である。しかし脳室内出血, くも膜下出血, 出血性梗塞を発症した例がある。この症例では、静脈還流への影響, 手術侵襲, がともに少なく思われる。脳静脈瘤のclippingの手術適応を検討した。

### 7. PICA末梢部動静脈奇形, 動脈瘤合併例術後に生じたslit ventricleの1例

○東 徹, 大橋雅広  
(市立砺波総合病院脳神経外科)  
山本信孝(金沢医科大学脳神経外科)

PICA末梢部動静脈奇形と流入動脈に発生した動脈瘤の合併例においてV-Pシャント後, slit ventricleと一過性の脳圧亢進症状を示した1例を報告する。症例は41才女性, 突然の頭痛と悪心・嘔吐・めまいにて発症, 初診時意識は清明で項部強直と両外側注視眼振を認めた。CTscanにてくも膜下出血と左小脳半球内血腫を、左VAGにてPICA末梢部に動静脈奇形と動



脈瘤を認めた。発症2週間後動脈瘤クリッピング及び動脈奇形摘出術施行、出血部位は動脈瘤でした。術後水頭症を認めたため、V-P シャント施行 Holter 型中圧バルブを使用した。術後約2週間後 CTscan にて slit ventricle を認めると共に flushing device の coming up 遅延、頭痛めまい歩行障害が出現脳圧降下剤投与にて症状およびシャント機能改善、脳室拡大を認めた。PICA 末梢部動脈奇形と動脈瘤合併例およびシャント後の slit ventricle に関して若干の考察を加え報告した。

座長 土屋良武（福井県済生会病院）

#### 8. 虚血性脳血管障害に対する STA-MCA 吻合術 —術前術後の脳循環動態—

○東壮太郎，得田和彦，正印克夫  
黒田英一，池田清延，伊藤治英  
山下純宏（金沢大学医学部脳神経外科）

STA-MCA 吻合術前後の脳血流量の推移を検討した。症例は IC 閉塞6例，MCA 狭窄1例，MCA 閉塞1例である。脳血流量は IMP SPECT より算出し、追跡期間は3～23ヶ月である。結果：術前の脳血流量が45ml/100g/min 以下の4症例では、術後1～2週間の相対的過灌流の時期を経て、術前より改善した値で平衡状態に達した。この相対的過灌流は術前の脳血流量が低い程度高度であった。術前の脳血流量が45ml/100g/min 以上の2症例では術後の過灌流は認められなかった。術後慢性硬膜下血腫を合併した2症例ではその時期に一致して脳血流量の低下を認めた。結論：術前に慢性的低灌流状態にある症例では血行再建術により術後1～2週間にわたり相対的過灌流が出現する。

#### 9. 若年者脳底動脈閉塞症の1例

○加藤 甲，高田 久  
（氷見市民病院脳神経外科）  
根上利宏（同 神経内科）

若年者の脳底動脈閉塞による閉じ込め症候群をきたした症例を報告した。症例は17才，女性。既往歴，家族歴には特記すべき事なく，四肢麻痺，意識障害にて発症。脳脊髄液は血性で脳底動脈は AICA 分岐部で完全閉塞していた。右椎骨動脈は低形成，左椎骨動脈は頭蓋内進入部位で窓形成を呈していたが，解離性動脈瘤を示唆する所見は認めなかった。心疾患なく，血液生化学的検査は全て正常。アミノ酸分析，免疫学的にも異常はなかった。従って各種疾患による血管炎は考え難く，脳底動脈閉塞の原因は確定出来なかったが，

若年者の原因不明とされている閉塞性血管障害の中には剖検にて解離性動脈瘤と診断される事が多く本例の場合も血管撮影等にて特徴的な所見は得られなかったが解離性動脈瘤の可能性は否定できないと考えられる。

#### 10. 興味ある臨床経過をとった特発性内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例

○林 央周，津村貢太郎，栗本昌紀  
長堀 毅，岡 伸夫，高久 晃  
（富山医科薬科大学脳神経外科）

症例は57才女性。昭和63年2月10日頃より右側に拍動性耳鳴り自覚，2月20日頃より右眼瞼腫脹，3月初めに右眼球結膜充血に気付き，4月17日に当科外来を受診した。4月26日の右 CAG で右上眼静脈を主な流出静脈とする CCF を認めた。その後，5月25日に突然耳鳴りは消失したが，5月29日頃から眼球結膜充血・眼瞼腫脹・眼瞼下垂が増悪した。6月8日の右 CAG では CCF は消失し，6月15日の眼窩静脈撮影では右上眼静脈・海綿静脈洞の閉塞を認めた。その後症状は次第に改善し，消失した。

本例にみられる如く特発性 CCF の経過において，症状増悪は自然治癒機転の進行を示す場合があることを強調した。

座長 徳力康彦（福井赤十字病院）

#### 11. 術後小脳出血をきたした症例について

○大橋経昭，徳力康彦，武部吉博  
金 崔坤，堀康太郎  
（福井赤十字病院脳神経外科）

左側頭頂部に認められた，比較的広範な梗塞を伴う脳動脈奇形の開頭術後に，対側小脳出血を来した1例を経験した。術野と遠隔部位の脳内出血の発生機序に関しては，減圧による正中構造の急激な移動による脳実質内血管の損傷，normal perfusion pressure breakthrough，気管内挿管や抜管の際の一過性の過度の血圧上昇による高血圧性脳内出血などが考えられている。今回の症例では，左頭頂部に比較的大きな梗塞巣があったこと，並びに術時の体位により右側の jugular venous congestion の可能性が無かったかの2点に注目し考察を行ってみた。trans tentorial diaschisis の可能性と，それによる稀弱化した血管に，venous congestion による異常な圧力が加わったための破綻出血と考えた。

#### 12. Nd-YAG レーザーが有効であった大脳鎌髄膜腫

## の 1 治験例

○吉田一彦, 柏原謙悟, 齋藤研一  
山本祐一, 村田秀秋  
(福井県立病院脳神経外科)

症例は63才の女性。意識消失発作と右下肢の不全麻痺を認め来院した。CT スキャンで大脳鎌左側中央より上方は左頭頂葉皮質, 下方は左側脳質体部へ至る径5×6cmの不正円形の高吸収域を認め, 造影剤で著明に増強された。左CAGで, 前大脳動脈からの多数の栄養動脈上矢状洞へ注ぐdrainerを持つ腫瘍陰影を認めた。手術時, 腫瘍は弾性硬且つ著しく出血性の為, ループ電極などの単極ないし双極電気凝固器では摘出操作は極めて困難であったが, Nd-YAG laserを用い出力を20~40Wとして, 腫瘍組織を蒸散しあるいは腫瘍切除に伴う出血を止め, 全摘出しえた。組織は, fibroblastic type の髄膜腫であった。

座長 柏原謙悟 (福井県立病院)

## 13. 第三脳室 Xanthogranuloma の 1 例

○横山雅人, 中村 勉, 佐々木尚  
竹内文彦, 熊野宏一, 山本信孝  
鈴木 尚, 郭 隆瑛, 角家 暁  
(金沢医科大学脳神経外科)

52才女性, 主訴は両側頭痛と嘔吐。神経学的異常はないが, 血清コレステロールは高値だった。CT, 第三脳室 Monroe 孔部と左側脳室三角部に低吸収性で増強効果を示さない腫瘤を認め, 水頭症をきたしていた。MRI では, 腫瘤は long T<sub>1</sub>, long T<sub>2</sub> を示した。経脳室脳梁的に第三脳室内腫瘤摘出を施行。肉眼的には淡黄緑色の囊腫で, 組織学的には, 上皮構造はなく, 泡沫細胞が多数あり, 多核球の浸潤とヘモジリン顆粒を認めた。Xanthogranuloma と診断した。側脳室三角部の腫瘤も, 同一の組織と考えられる。患者は神経症状を残さず退院した。Xanthogranuloma もまれに水頭症をきたすことが知られており, 本例もその 1 例である。

## 14. 後頭蓋窩に転移した胸壁悪性リンパ腫の 1 例

○宮森正郎, 木多真也, 石瀬 淳  
山野清俊 (富山市民病院脳神経外科)  
草野義徳 (同 呼吸器外科)  
高柳尹立 (同 研究検査科)

頭蓋内転移性の悪性リンパ腫は, 脳腫瘍全国統計によれば0.9%の発生頻度と言う。症例は, 70才男性。既往歴に48年前結核性胸膜炎に罹患。昭和62年11月より胸痛出現し, 当院外科にて胸壁悪性リンパ腫と診断し

た。意識障害が出現し当科転科した。CT では, 小脳虫部と左小脳半球に低吸収域が有り, 2ヶ所増強効果を認め, 腫瘍摘出術を行ったが約10日後に死亡した。死因は腸管腫瘍穿孔による急性化膿性腹膜炎であった。免疫グロブリンの染色ではIgGと入鎖の抗体に陽性でB cell 系リンパ腫と診断された。悪性リンパ腫の中脳神経系転移例は増加の傾向にあり, その治療は今後の課題である。

## 15. 成人型アーノド・キアリー奇形の一治療経験

○橋本正明 (辰口芳珠記念病院脳神経外科)  
池田清延, 伊藤治英 (金沢大学脳神経外科)

成人型キアリー奇形は多彩な症状を示し, 他の大孔部疾患との鑑別に診断上注意を要する。本症の一治療経験について報告する。

症例は50才女性。昭和58年右手シビレ感で発症し, 歩行障害のため昭和62年11月9日入院。神経症状は四肢の腱反射亢進, 四肢末梢に強い筋力および知覚低下, 小脳症状, 嚥下障害, 味覚低下, 右僧帽筋筋萎縮, 舌の左側偏位など認めた。CT-myelo では, C1レベルまで両側小脳扁桃の下垂, 延髄圧迫変形所見を呈し, MRI 画像では延髄圧迫所見は不明瞭であった。後頭下減圧開頭, C1, 2 椎弓切除, 硬膜形成術を施行した。本例の神経症状は小脳扁桃の下垂程度より脳幹の圧迫程度に左右され, その High resolution CT-myelo の所見は MRI 所見より明瞭で診断上有用であった。

座長 山嶋哲盛 (金沢大学)

## 16. 内耳道内に限局した聴神経腫瘍の 1 治験例

○柏原謙悟, 村田秀秋  
(福井県立病院脳神経外科)  
向井裕修, 大西寛明, 伊藤治英  
(金沢大学医学部脳神経外科)

症例は2年来の右耳鳴, 右聴力低下を主訴とした44才の男性である。耳鼻科にて右聴神経腫瘍を疑われるも, 造影CTにて腫瘍は不明であった。1988年2月16日, MRIで右内耳道内に限局した腫瘍を指摘され, 脳神経外科に紹介された。同年3月8日, 右後頭下開頭が施行された。手術顕微鏡下に錐体骨を削り, 内耳道を開放し, 下前庭神経から発生した直径9mmの腫瘍全摘した。組織は神経鞘腫であった。術後顔面神経麻痺はなく, 耳鳴は消失した。術後右平均聴力は41.25dBで術前の30dBに比し軽度の低下をみたが, 右耳で電話の使用が可能であった。聴神経腫瘍の早期治療の重要性を示唆する症例であり, 腫瘍の早期発見には

MRI が有用であった。

#### 17. 腫瘍内出血で発症した聴神経腫瘍の1例

○宇野英一, 土屋良武, 谷 一彦  
山口成仁 (福井県済生会病院脳神経外科)

腫瘍内出血で発症した嚢胞性聴神経鞘腫の1例を経験したので報告する。症例は53才女性で数年前よりあった軽度の右難聴が突然悪化し同時に右顔面神経麻痺が出現。その2週間後から体動揺・歩行障害・嘔気・嘔吐が出現してきたため当科を受診。神経学的には軽度意識障害 (I-1), 右角膜反射減弱, 右顔面神経麻痺, 右聴力喪失, 注視方向眼振, 右小脳半球徴候, Romberg 徴候が認められた。頭蓋単純 Xp で右内耳道の拡大あり。CT で右小脳橋角部に高吸収値のniveauを形成する3×3×2.5cm大の嚢胞性腫瘍陰影が認められた。脳腫瘍摘出術を施行し, キサントクロミーな液と暗褐色の流動性血腫を有する嚢胞性腫瘍を確認。組織所見は Antoni A, B の混合型神経鞘腫で sinusoid 様血管の増生と出血巣, ヘモジデリン沈着が多数認められた。

#### 18. 脳膿瘍の1剖検例

○小暮祐三郎, 石倉 彰, 池田正人  
(国立金沢病院脳神経外科)  
渡辺駿七郎 (同 病理)

慢性関節リウマチのステロイド療法中に発症した脳膿瘍の剖検例を経験したので報告する。症例は77才女性で, 40才頃より慢性関節リウマチと診断され, ステロイドによる治療を受けていた。昭和63年5月初めより頭痛, 全身倦怠感, 全身浮腫が出現し心不全の治療を受けたが, 6月9日より意識障害, 発熱がみられ, 当科入院となった。CT では左側頭葉内に輪状に増強される病変が認められた。脳膿瘍を疑い, 抗生物質を投与したが, 意識状態, 全身状態ともに悪化し, 6月19日死亡した。脳の剖検では左側頭葉内に被膜形成を伴った膿瘍が認められた。本症例のような長期ステロイド投与例では感染の危険性が高く, 頭痛や神経症状がある場合, 脳膿瘍を疑い早期により適切な治療を行うべきであると考えられた。

座長 中村 勉 (金沢医科大学)

#### 19. 前斜角筋切断術より改善しためまいの2症例

○中田潤一, 古市 晋  
(社会保険高岡病院脳神経外科)  
西蔦美知春, 赤井卓也, 遠藤俊郎  
高久 晃 (富山医科薬科大学脳神経外科)

難治性めまいを訴え来院し, 逆行性椎骨動脈撮影にて鎖骨下動脈途中までしか造影されず, 前斜角筋切断術により症状の改善をみた2例を報告する。

症例1. 61才男性。頸部右向きでめまいが誘発され, 脳血管写上もその頭位にて左椎骨動脈が造影されなかった。術中, 前斜角筋が左鎖骨下動脈を圧排している事を確認した。

症例2. 59才女性。頸部正面, 右向きで, 左椎骨動脈が造影されなかったが, 術後症状, 脳血管写いずれも改善した。

#### 20. 頸椎疾患におけるMRIの有用性

○半田裕二, 竹内浩明, 兜 正則  
久保田紀彦, 林 實  
(福井医科大学脳神経外科)

脊椎および脊髄疾患37例において, MRIの診断上の有用性について myelo CT との比較検討を行った。頸椎変性疾患25例中6例において, MRI 上低信号として描出される OPLL 等の骨化病変は myelo CT にてより有意の所見を示した。disc protrusion を示した4例では, disc の変性や脊椎管内への disc の脱出は MRI において有意に描出された。脊髄空洞症の2例では, MRI は myelo CT に優っており, 空洞の位置と大きさを明確に描出し得た。脊髄損傷や脊髄腫瘍の症例では, MRI は髄外の病変を示すとともに, myelo CT では描出困難な髄内病変や脳脊髄液の動態を示し, 臨床上重要な情報をもたらした。脊髄および脊髄疾患において, MRI はルーチン検査として診断上重要な情報をもたらすが, 症例に応じて myelography および myelo CT の併用が必要と考えられる。

#### 21. 小児てんかんの1手術例

—MRIの有用性について—

○北林正宏, 駒井杜詩夫, 染矢 滋  
中島良夫 (厚生連高岡病院脳神経外科)

てんかん原性焦点の切除に MRI が有用であった1例を報告する。症例は11才男児。受診9ヶ月前より小発作と右上下肢の痙攣発作を頻りに認めた。初診時神経学的検査では異常を認めなかった。脳波で左頭頂—後頭中心に棘波を認めた。X線CTで左後頭葉に異常低吸収域が疑われた。造影剤増強効果はなかった。脳血管撮影では異常を認めなかった。MRIにて左後頭葉に T<sub>2</sub> 強調画像で high intensity として示される異常が明らかとなった。術中所見では MRI の異常部位に一致してくも膜の白濁・肥厚が認められた。脳表記録脳波で同部を焦点と確認し, 切除した。標本は瘢痕

組織であった。術後、脳波は正常化し、発作も消失した。

## 22. 繰り返す発作性の嘔吐後、眩暈と口周囲の知覚障害を来した2例の検討

○岩淵 崇, 切替典宏, 伊藤秀樹  
(富山赤十字病院脳神経外科)

血管写上右総頸動脈、椎骨動脈の間歇的圧迫の所見を見る例は年齢によらず梗塞に発展する危険がありカラーによる保存的療法と手術が有効であることを報告した。症例1; 37才男性。13才頃から発作性の嘔吐があり脳波、CT は正常。アドソンテスト陽性。血管写で間歇的圧迫の所見あり。経過中に意識障害、構音障害、口周囲の知覚低下、嚥下障害が生じUK投与で改善後に頸部の手術を施行し治癒。症例2; 36才女性。発作性の嘔吐がありアドソンテスト陽性。血管写で間歇的圧迫あり。9ヶ月後症例1と同様梗塞症状を呈したが頸椎カラーを装着し症状は消失。頸部捻転による虚血症状と血管写上間歇的圧迫の所見を呈した175例のうち初診時および経過中に麻痺を35例で認めたことから脳虚血発作の原因として重要である。

### 第14会場 リハビリテーション医学分科会

#### 第19回 北陸リハビリテーション医学集談会

##### 一般演題

##### 1. 失語を呈した一文盲例

○酒井美幸, 大森周二, 埴生知則  
(恵寿総合病院)

鈴木重忠, 能登谷晶子 (金沢大学病院)

##### 2. 失語症における意味知覚について

○中野 徹, 鈴木敏雄 (山田温泉病院)  
亀井 尚 (福井医技専)

##### 3. 重度失語症患者の文理解

○亀井 尚 (福井医技専)

##### 4. 漢字の失読失書がみられた1例

○白木幸三, 古川 仍, 梅田千広  
橋本正明 (辰口芳珠記念病院)

鈴木重忠, 能登谷晶子, 大西寛明  
(金沢大学病院)

##### 5. 嚥下障害と麻痺性構音障害の合併症に対する機能的アプローチ

○吉川文恵, 宮腰弘之 (鯖江リハ病院)  
亀井 尚 (福井医技専)

##### 6. 最重度重複障害児に対する食事指導の実践

○表 千恵美, 辛島千恵子, 角田明美  
(第2石川整肢学園)

##### 7. 線分2等分テストの再考

○清田朱美, 吉田栄子, 山本和徳  
田中瑞美, 卜部弘子, 進藤弘美  
(恵寿総合病院)

大塚弘美 (能登総合病院)

今寺忠造 (青山彩光苑)

##### 8. 線分3等分テストの検討

○吉田栄子, 清田朱美, 山本和徳  
田中瑞美, 卜部弘子, 進藤弘美  
(恵寿総合病院)

大塚弘美 (能登総合病院)

今寺忠造 (青山彩光苑)

##### 9. 脳卒中患者の空間認知における効き目の検討

○大塚弘美 (能登総合病院)

田中瑞美, 清田朱美, 吉田栄子

山本和徳, 卜部弘子, 進藤弘美

(恵寿総合病院)

今寺忠造 (青山彩光苑)

##### 10. 脳血管障害のCT所見と運動機能

○伊藤英樹, 切替典宏, 塩井美紀  
館美智子 (富山赤十字病院)

##### 11. 簡易上肢機能検査を用いた脳卒中後片麻痺患者の患側上肢機能評価の試み

○建部明代, 寺田佳世, 田中昌代  
小谷美紀代, 堀田千恵子, 西出義明

酒井広勝, 土場好美, 山口昌夫

(リハ加賀八幡温泉病院)

勝木道夫 (芦城病院)

田川義勝 (金沢大学医短)

##### 12. 片麻痺患者の臥位における体幹回旋筋力について

○桑野寛之, 中村康考, 石井久雄  
米田 尚 (中村病院)

佐々木伸一, 嶋田誠一郎 (福井医大病院)

清水義昭 (福井厚生病院)

##### 13. 脳血管障害急性期のリハビリテーション成績

○塩井美紀, 伊藤英樹, 藤井保寿  
館美智子, 中林広枝 (富山赤十字病院)

##### 14. 痴呆老人に対するデイケアの役割

○村本智子, 梶川民子, 堀 秀男  
加藤昌子, 服部幾之助 (鯖江リハ病院)

##### 15. 高度痴呆患者の評価方法の検討(II)

○中澤久夫, 伊藤清吾, 稲村 恵  
川越清次, 藤波英司 (福井総合病院)

苅安 誠 (福井医技専)

##### 16. 四肢不全麻痺のある橋出血患者の看護

—ADLの自立へ向けて—

- 中山美津子, 西部春美, 安念澄子  
井端裕子, 中川智恵子 (高岡市民病院)
17. 脳卒中片麻痺患者の更衣動作  
—ファスナー用自助具の使用—  
○中川英子, 稲葉尚美, 清水義昭  
小森吉晴, (福井厚生病院)  
中林幸保 (福井医大病院)  
米田 尚 (中村病院)  
林 正恵 (春江病院)
18. 身体障害者のリハビリ訓練・介護中に生じた骨折  
について  
○長谷好記, 長尾竜郎 (高志リハ病院)
19. 呼吸機能回復訓練器 (スーフル) の使用経験  
—第2報—  
○斉藤幸江, 島田政則, 山口まゆみ  
阿部文壮 (福井総合病院)  
堀 秀昭, 髪元朋史 (福井医技専)
20. 経皮的冠状動脈拡張術実施前後における運動耐容量の比較  
—虚血性心疾患—  
○奈須田鎮雄 (福井循環器病院)
21. プロ野球投手の肩関節 ROM について  
—一般健常人との比較—  
○野原和彦, 辛島修二, 後藤伸介  
西村真由美, 山口昌夫  
(リハ加賀八幡温泉病院)
22. エリエールを用いた筋力トレーニングに関する1  
報  
○松浦康考, 山田俊昭, 堂前隆志  
三井徳明, 神戸晃男, 出水利雄  
竹野博臣, 西村誠次, 東田紀彦  
岡田正人 (金沢医科大病院)  
山口昌夫 (リハ加賀八幡温泉病院)
23. 脊髄損傷における座位バランス  
○宮沢洋一, 青山邦彦, 林 正岳  
相木一秀, 和田文治, 堀 秀昭  
御油嘉津子, 奥谷潤一郎 (福井総合病院)
24. 高齢股離断患者に対するハーフソケット付き松葉  
杖の試作  
○中島邦博, 青山邦彦, 林 正岳  
山口まゆみ (福井総合病院)  
田中 諭 (福井メディカル)
25. 下腿切断を施行した Werner 症候群の1症例  
○浅井 仁, 立野勝彦, 染矢富士子  
(金沢大学医短)  
大沢 都 (金沢大学病院)
26. 遅延型ギランバレー症候群の1症例  
—装具療法により復学が可能となった例—  
○嶋田誠一郎, 佐々木伸一, 中山幸保  
(福井医大病院)
27. 手指屈筋腱縫合術後の作業療法  
○中山幸保 (福井医大病院)  
林 正恵, 松山俊也, 田嶋神智  
(春江病院)
28. 熱傷患者の1症例  
○西村誠次, 山田俊昭, 堂前隆志  
三井徳明, 神戸晃男, 出水利雄  
松浦康考, 竹野博臣, 東田紀彦  
岡田正人 (金沢医科大病院)  
山口昌夫 (リハ加賀八幡温泉病院)

## 第15会場 整形外科科分会

## 第108回 北陸整形外科集談会

## A. 小児の股関節痛

松永隆信 (岐阜大学医学部整形外科)

## B. 一般演題

## 1. 橈骨近位端に発生した Fibrous dysplasia の1例

○水谷善弘, 佐々木雅仁, 岡田正人  
(金医大整外)

## 2. Osteomalacia の1例

○松田宗久, 吉村光生, 長谷健司  
萩原道博, 井村慎一 (福医大整外)

## 3. 足部結核の2例

○長谷健司, 千葉英史, 萩原道博  
井村慎一 (福医大整外)

## 4. 小児化膿性踵骨骨髓炎の2例

○河合武司, 樋口雅章, 沢田米造  
菅原洋一郎, 藤田国政, 宮崎憲太郎  
(富山県立中央病院整外)

## 5. 踵骨剥離骨折を伴ったアキレス腱断裂の1例

○内田 理, 仲井間憲成, 三橋 雅  
西岡 孝 (黒部市民病院整外)

## 6. 後方転位をきたした鎖骨内即骨端線離開の1症例

○森田裕司, 神代靖久, 森田多哉  
(社会保険高岡病院整外)

## 7. 脛骨骨折手術の反省 (dual plate 法を中心として)

○三秋 宏, 木嶋光仁, 米沢繁男  
川北 篤, 中谷欣二, 重信弥八  
森川幹久, 近藤 啓, 大場 昭  
加藤日出治, 細川外喜男, 波多野茂

広瀬鎮郎, 高田宗世, 宗広忠平

石野 洋, 山岸範明 (金沢市整外開業医会)

8. 幼児大腿骨頸部内側骨折の1例  
○鳥幡康充, 山田義夫, 中条正博  
(市立敦賀病院整外)
9. 精神疾患を有する大腿骨頸部骨折について  
○米澤幸平, 一前久芳, 糸川秀人  
勝木保男 (国立金沢病院整外)  
近沢茂夫, 佐野 讓 (同 精神神経科)  
竹多外志 (同 名誉院長)
10. 感電による両肩腱板裂の1例  
○玉木茂行, 野尻正憲, 山本慎吾  
山田 茂 (福井赤十字病院整外)
11. 肩関節鏡視の小経験  
○萩原道博, 大橋義一, 長谷健司  
井村慎一 (福医大整外)
12. 小児の内旋歩行に対する下腿減捻骨切り術  
○大野賢朗, 野村忠雄, 林 律子  
中村琢哉 (石川整肢学園)
13. 両側先天性股関節脱臼の治療成績 (10年以上経過例)  
○中村琢哉, 野村忠雄, 林 律子  
大野賢朗 (石川整肢学園)
14. 骨移植を併用した TKR (Mark III) の経験  
○生方 彰 (城北病院整外)  
高田 泌 (富山協立病院整外)
15. 末梢神経に発生した神経鞘腫  
—その発育形態についての一考察—  
○影近謙治, 富田勝郎, 本田敬宣  
川北 哲, 土屋弘行, 池田和夫  
野村 進 (金大整外)
16. 腰椎砂時計腫の1例  
○三治秀哉, 岡田正人, 西島雄一郎  
(金医大整外)
17. 透析患者に発生した胸髄腫瘍の1治験例  
○橋本勇雄, 五十嵐一郎, 宮崎俊聡  
鹿野尚英 (厚生連高岡病院整外)
18. 小児脊髄腫瘍の2例  
○武田秀之, 山田 浩, 島 巖  
国下正英, 北岡克彦  
(石川県立中央病院整外)
19. 対麻痺をきたした骨粗鬆症による椎体骨折症例の検討  
○西村立也, 馬場久敏, 高橋啓介  
梅田真一郎, 富田勝郎 (金大整外)
20. 頸椎病変を伴った抗 HTLV-1 抗体陽性 myelo-

pathy の1例

- 須田康文, 野口哲夫, 半田豊和  
泉田重雄, 佐野正登  
(富山県高志リハビリテーション病院整外)  
坂下泰雄 (同 神経内科)
21. 再手術を要した後方不安定性を伴う Os odontoidium の反省例  
○川口善治, 伊藤達雄, 加藤善治  
大島 博, 若宮一宏, 山本直也  
(富山医薬大整外)
22. 後頭-頸椎間 Luque SSI, 骨セメント固定後感染を呈した頸椎 RA の1例  
○遊道和雄, 伊藤達雄, 丸田喜美子  
松野博明, 寺畑信男 (富山医薬大整外)

#### 第16会場 臨床病理分科会

##### 第13回 北陸臨床病理集談会

当番幹事 黒田満彦 (福井医科大学検査部)

座長 高柳尹立 (富山市民病院)

#### 1. AMeX (Acetone-Methyl benzoate-Xylene) 固定包埋法の基礎的検討

—リンパ節について—

○斎藤 実, 森 正樹, 三宅敏彦  
黒田満彦 (福井医科大学検査部)

AMeX (Acetone-Methyl benzoate-Xylene) 包埋法は, リンパ球抗原をはじめ種々の抗原の局在を同定できると報告されているが, 日常病理検査にはまだ広く取り入れられていない. そこで我々は, 日常病理検査に取り入れることを目的として基礎的検討を行った.

[方法] 3mm 角新鮮リンパ節を先ず4°Cアセトンに投入し, 次にそのまま-20°Cのフリーザに移し24~48時間放置し固定した. 続いてアセトンで脱水し, 安息香酸メチルとキシレンで置換の後, パラフィン浸透し包埋した. 得られた標本の HE 染色性及び免疫染色性について, 凍結切片及びホルマリン固定パラフィン切片と比較検討した. [結果] 48時間の固定を行うことにより, 良好な形態及び染色性が得られた. 現在凍結切片でしか使用できないリンパ球表面抗原に対する抗体によっても, 良好な染色結果が得られた. [考察] AMeX 包埋法は, 免疫組織学的な日常病理検査に有用な方法であると思われた.

#### 2. 臓器別にみた腺癌の EMA の局在について

○川畑圭子, 渡辺麒七郎, 尾崎 聡  
川中 剛, 富田小夜子, 南 博支

(国立金沢病院研究検査科)

【はじめに】EMA の用途として、LCA と組み合わせるリンパ腫と未分化癌の鑑別や、骨髄や肝臓での微小転移巣の発見に有用とされている。今回我々はその他の利用方法として原発巣不明の転移癌に対する EMA の染色性から、原発臓器の推定ができないものか検討した。【対象及び方法】対象は胃、大腸、甲状腺、肺、子宮体部、卵巣、乳腺の各臓器別に腺癌各10例の組織標本・使用抗体は抗 EMA (DAKO E29)、抗 MAM6 (トーレフジバイオニクス 115D8) の2種類。【結果】1. 正常では乳腺や肺上皮に2種の抗体ともよく反応し、その他の上皮では(-)～(+)でクローンにより差が見られた。2. 癌では乳腺癌、肺癌によく染まり大腸癌、甲状腺癌では弱かった。3. 胃癌では高分化型のもはよく染まるが低分化のものには一定した傾向は見られなかった。【結論】今回検討した原発不明癌の転移巣推定の EMA の用途として、転移巣(-)で高分化ならば大腸癌を、低分化ならば胃癌を考える。

### 3. H・E 標本に見られるエオジン好性微細片について

○川中 剛, 川畑圭子, 尾崎 聡  
富田小夜子, 南 博支, 渡辺駿七郎

(国立金沢病院研究検査科)

<目的>H・E 標本のアーティファクトの1つとしてしばしばエオジン好性微細片が見られる。時には多量に見られ目障りで写真撮影時には大きな障害となる。いろいろ防止を試みたが余り効果なく、今回再度検討した。

<方法・結果>①成書によるとこの微細片は標本作製者由来の扁平上皮とされている。そこで微細片の由来を同定すべく酵素抗体法を実施したところケラチン(+), ピメンチン(-)であった。またその形態や稀れに有核のものが見られる事から扁平上皮であると思われた。②標本作製過程のうち一番混入しやすいと思われる薄切, 包埋過程で, 器具には絶対触れないで作業したところ, 微細片は全く見られなかった。また, スライドガラスに指先を擦りつけて故意に付着させたところ, 微細片は多量に見られた。<結論>エオジン好性微細片は主として貼付者よりもたらされる扁平上皮である。これを防止するには, スライドのスリガラス部分以外絶対に触れないなど細かい注意が必要である。

座長 渡辺駿七郎 (国立金沢病院)

### 4. 胃癌手術中に偶然発見された直径約 1cm の肝の focal nodular hyperplasia の1例

○野々村昭孝, 水上勇治, 松原藤継  
(金沢大病理部)

清水康一, 米村 豊, 泉 良平  
(同 第2外科)

胃癌症例で偶然発見された径約1.0 cm の focal nodular hyperplasia (FNH) で構成肝細胞に多くの hyaline globules (HG) を認めたので報告する。57才男性, 主訴は心窩部痛, 本年1月中旬より主訴を認め近医にて手術を勧められるも大学病院にて精査を希望, 検査にて胃角部に IIc+III病変があり, 胃垂全摘術を行う。その時肝左葉外側区域に腫瘤を触知, 転移を考えて切除する。胃癌はmの早期癌で転移なし。肝腫瘍は FNH であった。長径 1cm 中央に癍痕様の線維化があり, 典型的な FNH の像をしめした。組織学的胆汁うっ滞があり, 構成肝細胞の胞体内に核より小さな大小不同の HG を多数認めた。diastase 抵抗性 PAS 陽性,  $\alpha$ 1-antitrypsin 陰性, 免疫グロブリン陰性, PAS 陽性であり巨大ミトコンドリアは否定的, 電顕観察はまだであるが, 肝細胞癌やアルコール肝障害などで見られる globular hyaline に類似しているように思われた。これまで FNH でこのような例の報告はみあたらない。

### 5. CML 急性転化症例の経過検討

○本郷忠彦, 野崎志げ子, 増本幸美  
加藤陽子, 高柳伊立  
(富山市民病院中央研究検査部)  
谷本一夫 (金沢大医短)

慢性骨髄性白血病急性転化11症例の病型および経過について検討し, 報告します。過去11年間に前期6年後期5年に分けその急性転化率をみますと, 前期では44.4%後期は77.8%で最近の増悪期治療成績の向上が伺われます。急性転化11症例について非リンパ球系(6例)リンパ球系(5例)に分け, 初診時年齢, 初診より急性転化までの期間, 直接死亡原因等について検討し, 両者に差をみませんでした。染色体の検索では慢性期が長期間であった2症例に Ph1 以外の染色体異常がみられました。急性転化後の薬剤感受性パターンを完全寛解型, 不完全寛解型, 再生不良性貧血型, 感受性不良型および感受性欠陥型の5型に分類し, 非リンパ球系転化・リンパ球系転化のそれぞれについて比較した結果, 非リンパ球系では一定の傾向を見ませんが, リンパ球系では3例に完全寛解, 他の2例に感受性を認めず, PV 療法の施行に当たったの経

過観察の重要性が痛感されました。

#### 6. 気管支擦過・吸引材料における大細胞癌例の臨床細胞学的検討

○今村伸一, 島崎栄一, 石原慶子  
池田実千野, 野崎智子, 高柳尹立  
(富山市民病院中央研究検査部)

当院において1984年1月から1988年7月までに行われた気管支擦過・吸引材料を対象に, 大細胞癌の診断をめぐる問題点を検討した。総件数1293件のうち重複症例を除く細胞診陽性例は117名であった。細胞診と組織診の診断一致率は, 腺癌82.3%, 扁平上皮癌92.3%, 小細胞癌86.6%で, 大細胞癌は25.0%と低い正診率であった。細胞診で大細胞癌とした5例のうちに腺癌が3例含まれ, また細胞診で腺癌とした2例, 扁平上皮癌とした1例は, 組織学的に大細胞癌であった。腺癌を大細胞癌とした例は, 中分化型腺癌ながら, 細胞像は散在性で細胞異型が強い点が大細胞癌に近似し, また大細胞癌を腺癌および扁平上皮癌と診断した症例は, 重積性優勢で細胞形, 核形不整の軽度な分化度の低い細胞が主体であった。これら細胞診と組織診の不一致を来す原因として, ①細胞出現態度や, ②細胞異型度の症例差, ③喀痰細胞診の判定基準にそのまま準拠した点などが考えられた。

座長 早瀬 満 (金沢医科大学)

#### 7. 胃・十二指腸粘膜からの *Campylobacter pylori* 分離の試み

○池端 隆, 山崎美智子  
(金沢医大中央臨床検査部)  
早瀬 満, 寺岡弘平, 寺畑喜朔  
(同 臨床病理)  
高瀬修二郎 (同 消化器内科)

本年6カ月間に26名の胃・十二指腸粘膜より *Campylobacter pylori* 分離を試みたところ, 13名(50%)の胃粘膜と10名(38.5%)の十二指腸粘膜より *C. pylori* を分離した。鏡検と培養成績に差があるため6種の市販培地と3種の自家製培地で分離株の発育を比較したところ, 3種の市販培地と2種の自家製培地で発育し難い株があり, 自家製 Skirrow 培地の使用を開始したところその後の陽性率は55.9%で使用前の22.2%を大きく上回った。分離した23株の生物性状, 薬剤感受性は全株同様の成績を示し, ウレアーゼ強陽性が同定上有用な性状であり, NA 以外の使用薬剤に耐性は見られなかった。臨床診断との関連では十二指腸潰瘍75%, 胃炎45.5%, 胃潰瘍33.3%で十二

指腸潰瘍例から高率に分離された。しかし, 分離材料の部位, 個数, 胃, 十二指腸病変の活動性の評価など問題が多く, 今後例数を増やし検討を重ねたいと考えている。

#### 8. 肝膿瘍より分離した *Clostridium difficile* に関する臨床細菌学的検討

○久保克美, 山下政宣, 森河 淨  
黒田満彦 (福井医科大学検査部)

腸管常在菌である *C. difficile* は, 広域抗生剤の使用下で, 偽膜性腸炎をおこすことが知られている。われわれは, 抗性物質の投与中に *C. difficile* による肝膿瘍を発症した, きわめてまれな症例を経験したので報告する。患者は, 67才の男性, 肝細胞癌の治療中に急性胆嚢炎を併発し, 胆嚢摘除術を受けた。しかし感染が持続し, 術後約1週間目に肝膿瘍を穿孔, 排液した。この液の好気・CO<sub>2</sub>の両培養は陰性であったが, GAM 培地嫌気培養で良好に発育したグラム陽性芽胞桿菌を分離した。菌は, グルコース・果糖分解陽性で, エスクリン加水分解, ゲラチン液化, N-アセチルグルコサミンがそれぞれ陽性, アニデント・ガスクロマトグラムから *C. difficile* と同定された。ラテックス凝集反応で, 培養濾液と肝膿瘍排液の両者から *C. difficile* の外毒素を検出した。本症例では, 嫌気培養が, *C. difficile* を発見する契機となっているので, 同培養を行うことの重要性がうかがわれた。

#### 9. Kinyoun 抗酸菌染色法の検討

○殿畑晶子, 尾角信夫, 伊藤嘉浩  
松岡隆子, 藤田信一  
(金沢大検査部)  
松原藤継 (同 臨床検査医学)

現在抗酸菌染色には Ziehl-Neelsen 法が広く用いられている。今回は加温を必要としない Kinyoun 法と Ziehl-Neelsen 法を比較検討した。染色液は塩基性フクシン 4g, エタノール 20ml, フェノール 8g, 精製水 100ml からなり, 脱色液, 対比染色液は Ziehl-Neelsen 法と同じである。染色時間は3分, 脱色2分, 対比染色20~30秒である。Ziehl-Neelsen 法と Kinyoun 法を同時に染色して検討すると, 224検体のうち Ziehl-Neelsen 法で陽性の検体は5検体で, この検体は Kinyoun 法でもすべて陽性であった。Ziehl-Neelsen 法で陰性の119検体は Kinyoun 法でもすべて陰性であった。さらに自動グラム染色機を用い, 50検体について Kinyoun 染色を試みたところ, 陽性検体2検体は赤く染色され48検体は陰性であつ



た。この結果は Ziehl-Neelsen 法と一致した。

以上より Kinyoun 法はルーチンへの有用性が高く自動染色も可能であり、さらに検討を重ね自動化の方向に進めたいと考えている。

座長 森河 浄 (福井医科大学)

#### 10. Two-color flow cytometry によるリンパ球表面マーカー解析の有用性

○大垣由香里, 高村利治, 松下信之

山岸幸造, 小林和美 (金沢大検査部)

橋本琢磨, 松原藤継 (同 臨床検査医学)

(目的) Flow cytometer FACScan および Two-color 解析用試薬 Simul test, 分析をサポートする Simul set ソフトウェア (ベクトン・ディッキンソン) の基礎的検討を行った結果と Two-color 解析によって見つかった CD4+CD8+細胞が増えている astrocytoma の症例について報告する。

(結果) ①同時再現性 (n=10) Tcell cv=0.8%, Bcell cv=10.5%, TH/I cv=2.6%, TS/C cv=3.9%であった。②全血法とリンパ球分離法の相関 (n=23) Tcell r=0.961, Bcell r=0.972, TH/I r=0.965, TS/C 0.966であった。③基準値 (n=40) Tcell 62~81, Bcell 5~15%, TH/I 29~52%, TS/C 27~42%, に設定した。④症例 CD4+CD8+ 細胞 (14%) について CD1 と CD4, CD8, CD3 と CD4, 8 の Two-color 解析の結果, Common Thymocyte 由来の細胞であると考えられた。

(まとめ) Two-color 解析は, Single-color では判らなかつた 2 種以上の抗原性をもつ細胞の存在を明らかにし, リンパ球表面抗原の詳細な分析に有用であると思われる。

#### 11. オルソスペクトラムIIIを用いたリンパ球サブセット検査の基礎的検討

○岡田敏春, 森河 浄, 市川雅彦

泉 敦, 黒田満彦 (福井医科大学検査部)

フローサイトメーターを用いたリンパ球サブセット検査のルーチン化を目的に検討を行った。装置は SPECTRUM III, 試薬は Leu モノクローナル抗体 Leu4, Leu2a, Leu3a, Leu12 を用いた。測定結果への影響が考えられる幾つかの条件を検討し, 健常者におけるそれぞれの出現頻度を求めた。抗凝固剤の検討では, Heparin と EDTA-2K の差はなかつた。検体の保存については, 全血で24時間以内に測定できれば室温と4℃保存との間に差がなかつた。48時間保存する場合には, サイトグラム上のリンパ球集団の位置が移動

する傾向にあるため, 囲み方に注意が必要と思われた。健常人26名のリンパ球サブセットの陽性率は, Leu4, 66.6±8.21; Leu2a, 29.8±5.45; Leu3a, 37.0±4.82; Leu12, 9.5±2.60および Leu3a/Leu2a, 1.3±0.39となった。T細胞系の CV は5%以内であったが, B細胞系の CV はやや高値となった。

#### 12. フローサイトメトリーによる白血球機能 (貪食能・活性酸素産性能) の検討

○市川雅彦, 森河 浄, 岡田敏春

泉 敦, 黒田満彦 (福井医科大学検査部)

フローサイトメトリー (FC) による, 全血法による顆粒球の貪食能ならびに活性酸素 (SO) 産性能を検討した。貪食能は, 全血100μl と FITC ラベル蛍光粒子 (φ 2 μ) 懸濁液と混合浮置 (37℃), 5-120分の粒子取り込み率を測定した。細胞蛍光粒子比は, 1:10以下が良好で, 検体は, 室温3時間保存でも成績は安定していた。同時再現性並びに日差再現性は, 貪食開始20分以後では, CV 5%以内と良好であった。正常人の貪食能は, 貪食開始後60分で90%以上となった。SO 産性能は, 全血100μl を DCFH-DA 溶液 (5 μM/l) と混合浮置 (37℃), PMA にて刺激し, 5-120分後に顆粒球内で産性された DCF を平均蛍光強度の差 (MCD) として求め, H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>産性量とみなした。正常人8名の H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>産性は, 刺激後60分でピークを形成した (26±8MCD (mean±1SD))。FC による顆粒球の貪食能測定については, 全血のまま測定が可能で, 成績も比較的安定しており, 臨床応用が十分可能と考えられた。SO 産性能測定についてはさらに検討したい。

座長 小西奎子 (国立金沢病院)

#### 13. 感作抗原からみた測定方法によるRF 不一致例の分析

○西田小智恵, 天地義輝, 古沢明彦

(国立山中病院研究検査科)

川端 薫, 松田寿俊, 石見為信

小西奎子 (国立金沢病院研究検査科)

リウマチ因子 (RF) の測定方法間の不一致について, 抗原側から検討を加えた。

(方法) 抗原をを異にする4法, 変性ウサギ IgG (RAHA)・変性ヒト IgG (日立7050によるTIA)・ヒト IgG (LA2000)・ヒトγ-globulin (BNA), を用いて測定した。

(結果) 変性ウサギ IgG (RAHA) を基準にして各方法の不一致例を検討した結果, ①変性ヒト IgG を用い

る方法は不一致例が少なく(15.6%), 不一致の多くは(RF陽性の11.6%) RAHA (+)を(-)とする不一致であり, 両者は異種抗原ではあるが同質の抗体を検出し, 両者の不一致は感度差によるものが多い。また, 変性抗原に対する抗体は RA 疾患特異性が高い。②変性のない抗原を用いる2法は RAHA との不一致が約40%と多い。そのほとんど(約30%)は RAHA (-)を(+ )とする不一致であり, RAHA が検出する抗体以外の抗体をも検出する。RA 疾患特異性は低い自己免疫機序が関与する病態を知る指標となるものと思われた。

#### 14. TIA 法による CRP 自動化

○山地裕子, 吉田郁子, 柴 則子  
内記三郎, 松田正毅, 鍛冶利幸  
小熊 豊, 桜川信男(富山医薬大検査部)  
樋口清博(同 第3内科)

TIA 法による CRP 測定法を開発した。

測定機はロシュ社製 COBAS FARA を使用し, エンドポイント法で測定した。

Buffer にテクニコン社製クリアリング液を3%となるよう加え血清中の混濁除去を行い, さらに低濃度での再現性・直線性の向上のため CRP 抗原を加え, 検量線の演算式に指数関数を用いた。

同時再現性は  $\bar{x} = 0.86\text{mg/dl}$  で CV, 2.21%,  $\bar{x} = 14.04\text{mg/dl}$  で CV, 1.51% (n=10), 日差再現性(10日間)は  $\bar{x} = 0.87\text{mg/dl}$  で CV, 4.38%,  $\bar{x} = 14.47\text{mg/dl}$  で CV, 4.40% (n=20) だった。直線性は 20mg/dl まで良好で, イントラファット添加濃度2%, ヘモグメロビン濃度 500mg/dl, ビリルビン濃度 15mg/dl まで測定値に影響なし。Buffer への EDTA 添加や血清不活化の必要はない。本法と毛細管法との相関は良好であった。

#### 15. Latex 凝集反応 LPIA100 による HCG 測定とその臨床的意義

○藤田美乃, 高橋繁子, 中川志津子  
安藤幸子, 小西奎子  
(国立金沢病院研究検査科)  
岡部三郎, 丹後正紘(同 産婦人科)

Latex 凝集反応を利用した LPIA100 を用いて HCG を測定し, その精度と感度と診断意義について検討した。[方法と対象] 専用測定機 LPIA100 と専用測定試薬を用い, 午前中採尿の随時尿を検体とした。

[結果] ①再現性と希釈試験の結果から, 測定 range は 20~600mIU/ml と考えられた。妊娠時の

HCG は100倍希釈測定とし, 低レベルと高レベルの HCG が測定可能であった。②LH と FSH に交差性があった。しかし, 健常女性では月経周期と無関係に正常値は 20mIU/ml 以下(男<11)であり, 妊娠4週では 0.4IU/ml であって妊娠の早期診断の妨げとはならなかった。③妊娠週に伴って HCG は速やかに増加し, 3ヶ月でピーク平均 65IU/ml を示した。④低レベル HCG による chorio carcinoma の経過観察は, 尿 HCG とは  $r = 0.788$  の相関で平行して動いた。[まとめ] 原尿測定で低レベル HCG が測定可能であり,  $\beta$ -HCG と同様の意義を持ち, 妊娠早期の診断と異常を知る指標となる。

#### 16. 各種免疫学的便潜血検査法

—測定原理における測定上の問題—

○高岡真弓, 山本正美, 吉国桂子  
(浅ノ川総合病院中央検査部)

OC-ヘモディア栄研(栄研化学), イムディア-Hem SP(富士レビオ), モノヘム(カイノス)を使用し, 測定原理差による測定上の問題を検討し, 以下の結果を得た。

1. いずれも実測上のプロゾーン現象を認めない。
2. ヘモディアが最も高感度である。
3. いずれも特異性に優れる。
4. 提出された検体は速やかに測定する方が望ましい。
5. 検体採取量の影響はモノヘムが最も少ない。
6. ヘモディアは測定上, 多検体処理に不向きである。

座長 小熊 豊(富山医薬大)

#### 17. クレアチニン測定(ヤッフエ反応)におけるビリルビン干渉の酵素的除去法の検討

○熊谷祐二, 井村敏雄, 長谷川俊雄  
黒田満彦(福井医科大学検査部)

Jaffe-rate 法によるクレアチニン測定に対するビリルビンの干渉について調べ, その影響を回避する方法として, ビリルビンオキシダーゼ(BOD)とコラー酸 Na 添加による処理を検討した。

クレアチニン測定値に対する影響は, ビリルビン濃度が 5mg/dl 以上となると 0.2mg/dl 以上の負誤差がビリルビン濃度に比例して加わることが確かめられた。この原因が, アルカリ性の反応液中においてビリルビンが分解し, 吸光度が変化するためであることが推定された。

この対策として, 高ビリルビン血清に BOD

10 Unit/ml, コール酸 Na 10 mmol/l を添加する前処理条件を組み立てた。本法はビリルビン濃度が 50mg/dl までクレアチニン測定値に影響が認められなかった。また、回収率も良好であり、本法による反応阻害も認められないことから、日常検査に利用しようとの結果を得た。

#### 18. ドライケミストリーによる血中電解質測定法の検討

○前川秀樹, 井村敏雄, 酒井好美  
長谷川俊雄, 黒田満彦  
(福井医科大学検査部)

スライド電極による電解質測定につき、イオン選択性電極法(日立736-40E 及びNOVA 5)及び蛍光法(コーニング480)による測定法と比較検討した。スライド電極法には KODAK 社製のエクタクム 700N と DT-60, 富士フィルム社製のFDC-800を使用した。スライド電極法は、再現性、直線性なども良く、他法との相関も良好であり、また操作の簡便性、迅速性、微量性など、特に緊急検査用に有用な点が多いと思われた。しかし、スライド電極法では容積置換の影響は生じないはずであるが、今回の検討ではタンパクや脂質濃度による影響がみられる場合があった。スライド膜への浸透性など不詳の要因の関与が考えられた。スライド電極法は利点も多いが、これらの不詳の要因によって、測定値に影響を受ける恐れもあり、種々の条件下での測定につき十分検討しておく必要があると思われた。

#### 19. クリナライザー (RX) 使用時における NEFA 試薬の安定性

○渡辺和則, 白石昌武, 吉国桂子  
(浅ノ川総合病院中央検査部)

クリナライザー (RX) はエアバスを使用しているため試薬が反応管注入前に37°Cで保温状態となることと、当施設ではバッチ処理検査ではなくリアルタイム処理を施行しているため、精度面で反応前の試薬停滞時間が重要なポイントと考えられる。検討の結果、NEFA 試薬の劣化が最も顕著であったので、その安定性をW社, E社の試薬と比較した。再現性、相関性ともにいずれも良好であったが、37°Cにおける試薬の安定性はE社が優れており、ダミーも必要としなかった。

座長 橋本琢磨 (金沢大学)

#### 20. 2, 6-ジクロロ-4-ニトロフェニルリン酸を用いた酸性ホスファターゼ測定法の基礎的検討

○酒井好美, 井村敏雄, 長谷川俊雄  
黒田満彦 (福井医科大学検査部)

合成基質 2, 6-ジクロロ-4-ニトロフェニルリン酸を基質とした血清中酸性ホスファターゼ活性測定法の自動化について、日立705自動分析装置を用いて、基礎的検討を行った。感度、直線性、再現性、添加回収率は良好な結果が得られた。共存物質のアスコルビン酸、ビリルビン、乳びなどの影響は認められなかった。しかし、溶血により、総酸性ホスファターゼ (T-ACP), 非前立腺性酸性ホスファターゼ共に負の影響が認められた。ナフテルリン酸法との有意な相関関係が認められた。本法で測定した健康者の T-ACP, P-ACP (前立腺性酸性ホスファターゼ) の活性値は、男性 (207名, 平均年齢33.0才) で、それぞれ、27.7-42.2U/l, 7.1-16.7U/l, 女性 (211名, 平均年齢26.7才) で、24.2-36.6U/l, 5.8-13.7U/l となり、T-ACP, P-ACP 共に性差が認められた。以上、本法は日常検査法として有用であると思われた。ただ、溶血による負誤差についての留意が必要と思われた。

#### 21. ACP アイソザイムの自動化

○内記三郎, 谷 みね子, 野手良剛  
細谷孝子, 村 史朗, 松田正毅  
鍛冶利幸, 小熊 豊, 桜川信男  
(富山医薬大検査部)  
松倉裕喜, 鈴木好文 (同 小児科)  
西野主真 (同 輸血部)

FPLC システムと AA-II 自動化学分析機とを組み合わせて、酸性フォスファターゼアイソザイムの自動化を試み、若干の知見を得たので報告する。

##### A. システムの特性

- 1) 検体処理スピード: 1 件体/40分
- 2) 再現性:  $\bar{x}$  4KAU CV 1.8%
- 3) 最小検出感度:  $9.4 \times 10^{-3}$  KAU
- 4) 他法との相関:  $\gamma = 0.987$

であった。

##### B. 臓器特異性, 細胞特異性

ニュージーランドラビットの臓器及びヒト血液細胞を用いて特異性を調べた結果、アルブミン分画近辺に、それぞれ特徴的ピークが出現した。

今後、容易にアイソザイムが分離できるようになったことは、病変部位、疾患の鑑別、早期発見、病勢の推移を把握するのに有効な手段となるであろう。

#### 22. 髄液の Adenosine deaminase 測定とその意義

○宮本智子, 横山 茂, 玉田外喜子

中川志津子, 高岡幸子, 小西奎子  
(国立金沢病院研究検査科)

〔目的〕髄液の adenosine deaminase (AD) の測定条件と測定意義について検討

〔方法〕ADA 初速度測定法 (デンカ) を用いてアボット VP で測定。髄液と試薬の混合比を 1:11 (血清は 1:26) とし, 感度を高めた。

〔成績〕①添加回収試験: 平均105.1%の回収率。②測定 range: 再現性と希釈試験が良好な測定 range は 1.5~50IU/l と考えた。③正常値: 細胞数10/3 以下 蛋白 30mg/dl 以下の髄液35検体の Mean は 1.35, SD は 1.022 で,  $M \pm 2SD$  から 2.5IU/l と考えた。④AD と蛋白量: 細胞数10/3 以下の髄液を蛋白 30mg/dl 以下と以上に分けた 2 群の Mean と SD には差は認めず, 両者の相関は  $\gamma = -0.113$  であった。⑤AD と細胞数: 多核球と  $\gamma = 0.26$ , リンパ球と  $\gamma = 0.53$  の相関性を認めた。⑥AD 正常なリンパ球の幼弱試験と AD との関連: PHA 幼弱化率とは  $\gamma = 0.083$ , PHA/Con A index とは  $\gamma = -0.187$ 。

〔まとめ〕髄液中の AD はリンパ球の数に相応し, virus 性疾患等の観察指標となり得る。

座長 二俣秀夫 (金沢大学)

### 23. 不安障害者にみられた僧帽弁逸脱症候群

○浜田敏彦, 福井純一, 黒田満彦  
(福井医科大学検査科)

越野好文 (同 神経科精神科)

三澤利博, 久津見恭典 (同 第3内科)

伊藤達彦 (福井県立精神病院)

不安障害患者20名を対象に恐慌発作と僧帽弁逸脱症候群 (以下, MVP) との関連について検討した。

精神学的診断は DSM III に従った。すなわち, 胸痛, 呼吸困難, めまい感, 心悸亢進, 死・発狂・統制不能恐怖等などのうち 4 項目以上の訴えがあるものを恐慌性発作とし, 恐慌性障害は 3 週間に 3 回以上の恐慌発作を認めたものとした。また, 身体的なものを含め不安症状が持続するものを全般性不安障害とし, 従来の躁鬱病に相当するものを感情病とした。この分類に従った内訳は恐慌性障害が男性 5 人, 女性 6 人, 全般性不安障害が男性 4 人, 感情病は男性 3 人, 女性 2 人であった。

MVP の診断は胸骨左縁から parasternal approach により心断層を描出し, 吉川らの方法及び永田らの方法に従った。

結果は, 不安障害患者の 50% の頻度で MVP が認められた。特に, 恐慌性障害患者では MVP が 63.6% と

高率に認められ MVP との関連が示唆された。

### 24. 小児における P300 測定に関する検討

○角田美鈴, 奥田忠行, 松田正毅  
桜川信男 (富山医薬大検査部)  
長沼賢寛, 村上美也子, 山谷美和  
小西 徹 (同 小児科)

事象関連電位は被検者の認知機能を反映するといわれており, 今回聴覚による課題関連刺激の P300 を測定し, 年齢変化および頭皮上の分布を検討した。〈対象〉正常児 44 名 (5~15 才, 平均 11.3 才) てんかん児 19 名 (4~14 才, 平均 10.1 才) である。〈方法〉聴覚刺激は, 1000Hz と 2000Hz の純音を, 刺激間隔 2 秒, 高音の刺激頻度 20% でランダムとした。脳波は HC60Hz, TC1.0 で記録し, 頭皮上 16 電極より導出。高音刺激回数を数えさせ, 脳波を 50 回平均加算し, P300 測定および Mapping を描いた。なお使用機器は Random stimulator 2426 型, signal processor 7T18 である。〈結果〉①正常児では年長なほど P300 は短縮。②P300 の振幅は頭頂部位優位に, 中心部から後頭部にかけて大きい。③てんかん児では P300 は明らかに延長。

P300 は数を数えられる被検者では導出可能であり, 認知機能, 精神活動評価の一助となり得ると思われる。

## 第17会場 眼科分科会

### 一般演題

#### 1. 30年以上経過した固定内斜視の手術経験

○矢野宏樹, 狩野俊哉, 窪田靖夫  
(富山医薬大)

#### 2. 糖尿病性角膜症に対する角膜表層穿刺術

○柳田 隆, 土屋美津保, 金子敏行  
(国立金沢病院)

#### 3. コンタクトレンズによる眼障害

一装用者にみられた細菌性角膜炎, ならびに洗浄液, 保存液による細胞毒性に関する検討一  
○北川和子, 福田正道 (金沢医大)

#### 4. カンジタ性眼内炎と思われる 1 例

○狩野宏成, 山村敏明, 柴田崇志  
(金沢医大)

#### 5. 真菌性眼内炎の 1 例

○佐々木次壽, 白尾 裕, 望月清文  
鳥崎真人, 河崎一夫, (金沢大学)

#### 6. 最近経験した先天白内障の症例

○臼井千威子, 田辺譲二, 望月清文

- 佐々木次壽, 河崎一夫, (金沢大学)
7. 後房レンズ移植後3カ月目に発生した Rubeotic Glaucoma の1例
    - 升田義次 (富山市)
    - 藤村和昌 (金沢市)
    - 杉田潤太郎 (名古屋市)
  8. 内頸動脈閉塞症の1例
    - 北大路浩史 (福井医大)
    - 久保田鉄也, 佐藤一史 (福井医大脳外科)
  9. 眼球突出を伴った続発開放隅角緑内障の1症例
    - 四日剛太郎 (輪島病院眼科)
    - 西郡 聡 (同 耳鼻科)
    - 永谷 等 (同 脳外科)
    - 堀田祐紀, 北島千代吉 (同 内科)
    - 吉川 淳 (金沢大学放射線科)
    - 山岸 満 (門前町)
  10. 前増殖型糖尿病性網膜症と光凝固
    - 重症度と予後について—
    - 小嶋一晃, 清水葉子, 松原広樹
    - 山岸善也 (福井医大)
    - 原田敬志 (名古屋大学)
  11. 後極部に裂孔を伴う網膜剝離
    - 硝子体手術による治験例—
    - 田辺譲二, 横川由紀子, 倉知 裕
    - 河崎一夫 (金沢大学)
  12. 同名性半盲を合併した心因性視覚障害と思われる1症例
    - とくに視野, 色覚の特異性について—
    - 小山英治, 中村真奈巳, 深見嘉一郎
    - (福井医大)
- 古田壽一, 山口成良  
(金沢大医神経精神, 附属病院医療情報部)
- 森川恵一, 前田義樹, 石黒信治  
上野勝彦, 山森正二, (金沢大医神経精神)
3. Haloperidol decanoate の血中濃度と臨床効果, ならびに血中ホルモン値に対する影響
    - 高木哲郎, 中山 涉, 渡辺健一郎
    - 猪山 茂, 鳥居方策 (金沢医大神経精神)
  4. 両側側頭葉損傷を呈した単純ヘルペス脳炎後遺症の1例
    - 渡辺健一郎, 三原栄作, 玉井 顕
    - 榎戸美佐子, 榎戸秀昭, 鳥居方策
    - (金沢医大神経精神)
  5. 半側空間無視を生じた脳底動脈先端部巨大動脈瘤の1例
    - 木村 信 (厚生連滑川病院脳外科)
    - 刑部 侃, 伊井雅康 (同 精神科)
    - 中谷恒夫, 石川 靖 (同 放射線科)
    - 松田博史, 久田欣一 (金沢大医放射線科)
  6. 左側前頭葉より病変が進行したクロイツフェルド・ヤコブ病と考えられる1例
    - 三辺義雄, 倉知正佳 (富山医薬大神経精神)
  7. Pick 病の <sup>125</sup>I-IMP SPECT 所見
    - Alzheimer 病との比較—
    - 湯浅 悟, 江守賢次, 藤井 勉
    - 倉知正佳 (富山医薬大神経精神)
  8. 臍癌を合併した Alzheimer 病の1剖検例
    - 村田哲人, 大森晶夫, 向井雅美
    - 松原六郎, 伊崎公徳 (福井医大神経精神)
  9. 家族性失調症の1剖検例 (IV).
    - 弟 (剖検例) と姉 (生検例) の直腸壁内神経節の比較—
    - 中村一郎, 坂本 宏, 福谷祐賢
    - 山口成良 (金沢大医神経精神)
    - 鳥居方策 (金沢医大神経精神)
    - 小泉卓也 (石川県立高松病院)

## 第18会場 神経科精神科分科会

## 第111回 北陸精神神経学会

## 一般演題

1. Triazolam のネコの REM 睡眠期の海馬律動波に及ぼす影響について
  - 山口成良, 木戸日出喜, 清田吉和
  - 久保田陽介 (金沢大医神経精神)
  - 伊藤達彦 (福井県立精神病院)
  - 中村圭佐 (福井大教心理)
  - 窪田三樹男 (厚生連高岡病院精神)
  - 吉本博昭 (富山市民病院神経精神)
2. 金沢大学神経科精神科における睡眠薬の使用状況について
  - 病歴・医療情報 RDB 管理システム (RIQS) による検索—
  - 三崎 究, 間所重樹, 中川博幾
  - 越野好文, 伊崎公徳 (福井医大神経精神)
  - 伊藤達彦 (福井県立精神病院)
10. 遅発性ジスキネジア患者の糖代謝
  - 越野好文, 堀江 端, 向井雅美
  - 林 卓也, 松原六郎, 伊崎公徳
  - (福井医大神経精神)
  - 伊藤達彦 (福井県立精神病院)
  - 菊川佐和子 (福井病院)
11. 大学病院入院患者にみられた宗教的影響
  - 三崎 究, 間所重樹, 中川博幾
  - 越野好文, 伊崎公徳 (福井医大神経精神)
  - 伊藤達彦 (福井県立精神病院)

12. 川柳をつくる分裂病の女性, その後  
○武内 徹 (高岡市民病院神経精神)
13. 医科大学生の飲酒様態と酒害に対する知識  
○貫志英生, 本多みよ子, 越野好文  
伊崎公德 (福井医大神経精神)  
三木刺男 (福井大保健管理センター)
14. 高松病院アルコール病棟開設後3年間の治療経験  
○奥田 宏, 沢田滋樹, 小林絢子  
西田千恵子, 川端千恵子, 道下忠蔵  
(石川県立高松病院)
15. 下剤を乱用する現代っ子たち  
- 「おならが出る」ことに悩む女子高校生 -  
○斎藤チカ子 (国立療養所北陸病院)  
伊波久光 (松原病院)  
木場清子 (金沢大医神経精神)
16. 某女子寮で発生した集団ヒステリーについて  
○吉本博昭, 島田真由美, 山野俊一  
本田 徹 (富山市民病院神経精神)
17. 内観療法の効果判定法に関する研究 (その1)  
- 描画法について -  
○草野 亮 (福井県立精神病院)
18. 内観療法の効果判定法に関する研究 (その2)  
- 症例紹介 -  
○草野 亮 (福井県立精神病院)  
吉本博昭, 本田 徹, 山野俊一  
(富山市民病院神経精神)
- 特別講演**  
精神保健法と他害・処遇困難患者  
- 処遇困難患者の調査および欧米特殊精神病院  
等視察結果から -  
道下忠蔵先生 (石川県立高松病院)
- 第19会場 小児科分科会**  
第224回 日本小児科学会北陸地方会
- 一般演題**  
座長 石原義紀
1. 大動脈中隔欠損症の乳児早期の1開心術治療例  
○村上 晃, 大中正光, 大橋博和  
堤 泰史, 竹村博文, 田中 孝  
(福井循環器病院外科)  
糸井利幸 (同 小児科)  
(指定討論者) 福井医科大学小児科 斎藤正一
2. 当科で経験した心筋症の臨床的検討  
○寺尾 岳, 畑崎喜芳, 沼田直子  
大野高史 (金大小児科)
- (指定討論者) 福井愛育病院小児科 岡本 力
3. Scimitar 症候群の1例  
○松田雅弘, 斎藤正一, 重松陽介  
須藤正克 (福井医大小児科)  
河北美紀子 (社保勝山病院小児科)  
(指定討論者) 辰口芳珠記念病院小児科 吉田 均
4. 脳膿瘍を伴ったブドウ球菌性心内膜炎の2例  
○山中章好, 足立壮一, 若林正三郎  
生田敬定, 福原君栄, 春木伸一  
(福井県立病院小児科)  
坂後恒久, 平谷美智夫  
(福井県立小児療育センター)  
一瀬 亨 (公立小浜病院小児科)  
越後茂之 (国立循環器センター小児科)  
(指定討論者) 金沢大学医学部小児科 大野高史  
座長 小泉晶一
5. 肺炎球菌による先天性肺炎の1例  
○中村真人, 松柳ひろ子, 堀田成紀  
久保 実, 渡部礼二, 大木徹郎  
(石川県立中央病院小児内科)
6. Omenn 病の兄弟例  
○大野一郎, 立浪朋子, 市原 強  
山上正彦, 松柳ひろ子, 上野康尚  
高野信彦, 谷内江昭宏, 横井 透  
三浦正義, 小泉晶一, 谷口 昂  
(金大小児科)  
(指定討論者) 福井県立病院小児科 生田敬定
7. 致命的経過をとった Virus-associated hemophagocytic syndrome の1例  
○犀川 太, 清酒外文 (公立能登病院小児科)  
畑崎喜芳 (金大小児科)  
(指定討論者) 福井医科大学小児科 木川芳春
8. 伝染性軟属腫  
- 集団生活における対応について -  
○小林文雄 (川口小児科)  
(指定討論者) 福井総合病院小児科 佐竹直子  
座長 小西 徹 (富山医薬大小児科)
9. Opsoclonus を伴う乳幼児 myoclonus の1例  
○林 修平, 坂口忠彦, 光吉 出  
中田庸平, 田里 寛, 中村凱次  
(福井赤十字病院小児科)  
(指定討論者) 福井医科大学小児科 小西行郎
10. 聴覚事象関連電位 P300 の小児における臨床応用  
○長沼賢寛, 本郷和久, 村上美也子  
山谷美和, 小西 徹, 岡田敏夫  
(富山医薬大小児科)

- 角田美鈴, 奥田忠之 (同 検査部)  
(指定討論者) 福井医科大学小児科 栗山政憲
11. 高アンモニア血症の迅速精密鑑別化学診断法  
○井上義人, 松本雅裕, 大倉隆司  
佐武直子, 喩 唯民, 新家敏弘  
久原とみ子, 松本 勇 (金沢医大人類遺伝)  
(指定討論者) 福井医科大学小児科 須藤正克
12. 血液凝固第Ⅷ因子の投与が有効であったと思われる Henoch-Schonlein 症候群の 1 例  
○二谷 武, 山谷眞己, 岡田敏夫  
(富山医薬大小児科)  
米澤弘幸 (八尾総合病院小児科)  
(指定討論者) 金沢医科大学小児科 世良憲正  
座長 春木伸一
13. Extensive Aganglionosis 兄弟発生例  
○南部 澄, 小沼邦男, 宮本正俊  
(富山市民病院小児外科)  
森尻悠一郎, 高田伊久郎 (同 小児科)  
高柳尹立 (同 臨床検査科)  
中島裕喜 (中島産婦人科医院)  
(指定討論者) 石川県立中央病院小児科 大浜和憲
14. 尿道下裂の治療例  
○野崎外茂次, 小沼邦男, 北谷秀樹  
和田知久, 中村紘一郎, 梶本照穂  
(金沢医大小児外科)  
(指定討論者) 福井赤十字病院小児科 中村凱次
15. 出生前より疑診され新生児期より呼吸窮迫を呈した巨大 bronchogenic cyst の 1 治療例  
○小松博史, 早野尚志, 岡本 力  
石原義紀 (福井愛育病院小児科)  
糸井利幸, 村上 晃, 大中正光  
田中 孝 (福井循環器病院)  
(指定討論者) 金沢医科大学小児科 北谷秀樹
16. 下血によって発見された消化管重複症の 1 例  
○道後正勝, 長瀬典子, 大浜和憲  
浅野周二 (石川県立中央病院小児外科)  
丸山 繁 (金沢聖霊病院小児科)  
(指定討論者) 富山市民病院小児外科 南部 澄

## 第20会場 産科婦人科分科会

## 一般演題

1. 染色体異常の出生前診断 (羊水, 絨毛) における問題点  
○朝本明弘, 矢吹朗彦, 干場 勉  
西本秀明, 北村修一  
(石川県立中央病院産婦人科)
2. 風疹抗体検査の問題点  
○干場 勉, 北村修一, 西本秀明  
朝本明弘, 矢吹朗彦  
(石川県立中央病院産婦人科)
3. 出生前に診断した胎児多発性脳梗塞の症例  
○生水真紀夫, 福岡哲二, 飯田和實  
(福井県立病院産婦人科)  
最近, 双胎一児死亡後, 生存児に脳障害を認めた一例を経験したので報告した.  
患者は, 27才の初産婦で家族歴などに異常を認めない. 双胎児妊娠のため20週で当科へ紹介された. 妊娠22週で, 双胎一児体内死亡を確認し, 羊水過多症を認めた. その後28週にかけて, 死亡胎児の縮小とともに羊水量が著明に減少した. 母体血中 FDP 値の上昇は認めなかった. 一児死亡後の生存児 BPD 増加は著しく不良であった. 超音波検査で, 左側脳室の拡張などを認め, 多発性脳梗塞と考えられた. 32週で早期産となり, 第1児は, 202g ミイラ化した男児, 第2児は1492gの男児 (1分後, AS 9pts) であった. 2羊膜・2絨毛膜で, 胎盤には数個の白色梗塞が見られた. 生児は体内感染を示唆する所見もなく, 生後約2か月で退院した. 反り返り・筋緊張亢進などの異常が見られ, 生後1か月でCPと診断された. 頭部CTでは左側脳室拡大, 脳萎縮, 石灰化巣など多発性脳梗塞の所見が認められた.
4. 胎内診断された胎児水腫が自然治癒したと思われる 1 例  
○丘村 誠, 大口昭英, 村田雅文  
栗野利春, 南幹雄, 館野政也  
(富山県立中央病院産婦人科)
5. 胸結合体の 2 症例について  
○安沢紀夫, 土用下麻美, 吉田勝彦  
高木弘明, 井浦俊彦, 桑原惣隆  
(金沢医科大産婦人科)
6. 粟粒肺結核合併妊娠の 1 症例  
○後藤健次 (国立鯖江病院産婦人科)  
西尾宏之 (公立小浜病院内科)  
紙谷尚之, 大月 澄, 久保 真  
細川久美子 (福井医科大産婦人科)
7. 流早産の予防管理と治療成績  
○斉藤友治 (斉藤医院, 福井医科大産婦人科)
8. 座位分娩についての検討  
○田村尚也, 鈴木秀文, 宮越洋二  
(福井愛育病院産婦人科)
9. 当院における骨盤位分娩

○鈴木秀文, 田村尚也, 宮越洋二  
(福井愛育病院産婦人科)

#### 10. Magnetic Resonance Spectroscopy (MRS) を用いた子宮筋エネルギー代謝の研究

○根上 晃, 西島浩二, 稲木弘美  
経沢 弥, 久住健一, 福野直孝  
加藤栄一, 佐々木博正, 長谷光洋  
竹内 譲, 小辻文和, 紙谷尚之

麻生武志, 富永敏朗 (福井医科大産婦人科)

高木 均 (福井医科大学共同利用研究施設)

#### 11. ラット乳腺超微細構造に関する内分泌学的研究

○鈴木信孝, 中嶋正則, 中川俊信  
打出喜義, 杉山裕子, 寺田 督  
(金大産婦人科)

副腎性アンドロゲンであるデヒドロエピアンドロステロン (以下 DHA) の IN VITRO におけるラット乳腺に及ぼす影響を検討し報告した。方法は50日齢で Wistar 系雌ラットの両側卵巣を摘出し60日齢で乳腺を摘出後, 器官培養下に DHA を投与し乳腺分泌の変化を見た。medium は無血清倍地である double free media (インスリン 1mg/l 含有) を使用し, DHA を 0.1  $\mu$ g/ml, 及び10  $\mu$ g/ml となるように添加し144時間培養後電顕で観察した。DHA 0.1  $\mu$ g/ml の像では核が腫大し, 核縁が凹凸不整で辺縁クロマチンが増量し, 明瞭な核小体が見られ, 乳腺が活動期にある事を示唆していた。また, 形成間もない脂肪滴が出現し, 細胞質には遊離リボソームやポリソームが増加していた。DHA 10  $\mu$ g/ml では, 粗面小胞体が著明に増加し, タンパク性分泌物が見られた。以上のことよりインスリン存在下において DHA は乳腺に刺激的に働き脂肪滴の増加とタンパク顆粒の出現をもたらす事が示唆された。

#### 12. 実験的乳腺腫瘍超微細構造に及ぼすホルモン投与の影響について

○富松光功, 小浜隆文, 川北寛志  
三輪正彦, 加藤三典, 寺田 督  
(金大産婦人科)

ウイスタ系雌ラットを50日齢で卵巣摘除後, 65日齢で DMBA 2mg を乳腺組織内に局所投与し各種性ステロイドホルモン投与した。プロゲステロン (P), エストロゲンとプロゲステロンの合剤 (E+P), テストステロン (T) では乳腺腫瘍の潜伏期間及びラットの生存期間が有意に短縮した。副腎性アンドロゲンである DHA の少量投与では潜伏期間及び生存期間が共に延長した。組織型では, エストロゲンの多量及び P で

は腺癌が少なく, DHA 多量, E+P, T では腺癌が多かった。更に DHA 投与群の中で腺癌について超微構造上の特徴を比較したところ, DHA 少量投与では細胞間の結合が疎となり, 細胞の大小不同が大きくなり, 細胞の変性像が散見された。DHA 多量では細胞内小器官は減少していた。また乳腺組織に対する DHA の影響は, DHA 少量では細胞質内に脂肪滴が増加し周囲の間質の線維芽細胞が腫大していた。DHA 多量では更に上皮細胞は多層化していた。

#### 13. 2, 3の乳房腫瘍症例について

○寺田 督, 原田丈典, 林 恵子  
上野浩久, 岩脇俊也, 赤祖父一知  
(金大産婦人科)

代表的な乳腺の良性充実性腫瘍は線維腺腫である。線維腺腫の一亜型として, 葉状嚢胞肉腫 (Cystosarcoma phyllodes) があり, 稀な腫瘍である。好発年齢は, 40才代である。この腫瘍は多くは良性であるが, この腫瘍発育が急速に成長するのが特徴的である。また再発や転移が認められることもある。この腫瘍は間質細胞の増殖, 細胞異型, 核分裂像などが認められれば, 悪性と診断される。今回葉状嚢胞肉腫 (benign 女 43才; borderline malignancy 女, 40才), 線維腺腫 (女, 34才) の3症例について, マモグラフィ, 超音波像, 組織像所見などを含め報告する。線維腺腫はマモグラフィ・超音波像とも限局性均一腫瘍陰影であり, 官内型線維腺腫である。葉状嚢胞肉腫はマモグラフィ所見が分葉状限局型腫瘍陰影であり, 超音波像も内部エコーがほぼ均一な同様陰影である。この腫瘍は間質細胞成分が豊富であり, borderline malignancy では, 細胞異型があり, 核分裂像 (0~3/10HPF) を認める。

#### 14. CA-125 が異常高値を示した子宮内膜症の1例

○井川一正, 藤田 克, 石川 宏  
(高岡市民病院産婦人科)

6年前より下腹部に子宮筋腫あるいは右卵巣腫瘍の存在を指摘されていた患者が血管内凝固症候群を合併したショック状態となった為, ショック状態の回復後, 原因除去を目的とした開腹手術を行うことになった。

術前検査で CA-125 が3840と異常に高く, 悪性の卵巣腫瘍が疑われたが術後病理診断では良性の子宮内膜症とされた。

CA-125 の値は術後急速に減少し, 患者の状態も回復した為, 患者は退院とした。現在外来にてダナゾー



ルを投与した経過を観察している。CA-125 はいまだに正常域には成ってはいないが再発の兆候は見られない。CA-125 の値に関して本例では異常高値を示したにもかかわらず、良性の子宮内膜症であったことより、腫瘍の悪性、良性の判定の基準には成りにくいものと考えられた。CA-125 の減少して行く経過は患者の状態の回復して行く過程に良く一致していたように思われた。

#### 15. S 状結腸癌を疑わせた腸管子宮内膜症の 1 例

○道倉康仁, 山崎 洋, 松田春悦  
(市立敦賀病院産婦人科)  
金平永二, 石田一樹 (同 病院外科)  
寺田忠史 (金大第 2 病理)

症例は39才の女性。昭和58年11月, 月経時下腹部痛を主訴に他医受診し, 子宮内膜症の診断で, Danazol を4か月投与されたが, 症状は軽快しなかった。昭和60年頃より下痢と便秘をくりかえすようになり, 残便感も生じたため, 昭和63年4月6日, 当科受診した。内診では軽度の子宮の可動制限以外に著変を認めなかった。当院外科にて注腸造影したところ, S 状結腸に apple core sign を認め, 大腸鏡では, 肛門より約 20cm 口側に全周性の狭窄を認めたため, S 状結腸癌を疑い, 昭和63年5月16日, 開腹となった。術中病理組織迅速検査でS 状結腸の子宮内膜症と判り, 低位前方切除, 単純子宮全摘, 両側付属器切除が行われた。術後の病理学的検索では, 子宮および両卵巣に子宮内膜症は無く, S 状結腸の限局的子宮内膜症であることが確認された。術前診断が困難であつた腸管子宮内膜症の1例を経験したので報告した。

#### 16. 癒着性前置胎盤の症例

○上野浩久, 生水真紀夫, 飯田和質  
(福井県立病院産婦人科)  
津田利雄 (津田医院)

癒着胎盤は, 胎盤が子宮筋層に癒合, 進入しているため, 強制的に胎盤を剝離すると大出血をきたし shock に陥ることがあるため, 我々産科医にとって細心の注意を払うべきものの一つである。今回我々は, 前置胎盤の診断のもと帝王切開術を行ったところ, 胎盤が容易にはがれず, やむなく子宮全摘出術を行い, 病理検索にて癒着胎盤の診断を得た症例を経験した。症例は39才の主婦で, 妊娠分娩歴として, 1回経産, 2回自然流産していた。入院時, 貧血と辺縁前置胎盤の診断をうけ, 入院3日目性器出血増量してきたため帝王切開術を施行した。児娩出後, 胎盤が容易に剝離

できずやむなく, 子宮全摘術 (Porro 氏手術) を行った。組織診で, 頸管部において床脱落膜がみられず Trophoblast が筋層に直接癒合しており, Placenta accreta と診断された。

#### 17. 13才の卵巣 Endodermal Sinus Tumor の1症例

○前川道郎, 土田 達, 大酢和喜夫  
深江 司, 松本裕史, 遠藤幸三  
(金沢赤十字病院産婦人科)

#### 18. 29才の婦人に発生した胎状奇胎妊娠と子宮体癌の合併例について

○内田 実, 内田 一, 丸山千鶴  
(内田病院)

#### 19. 開腹術を要した卵巣腫瘍表在血管破綻の1症例

○井上修司, 後藤健次  
(国立鯖江病院産婦人科)  
小辻文和, 竹内 譲, 加藤栄一  
佐々木博正, 長谷光洋, 吉田好雄  
(福井医科大産婦人科)

#### 20. 腔式残留頸部摘除術の4例

○中川 隆, 鳥取孝成  
(富山赤十字病院産婦人科)

#### 21. 先天性副腎過形成症の1例

○中野 隆, 佐竹紳一郎, 小島康夫  
舟本 寛, 館野政也  
(富山県立中央病院産婦人科)  
久保 正 (同 病院内科)

#### 22. 先天性頸部嚢胞状リンパ管腫の1例について

○朝野加奈子, 加藤三典  
(福井総合病院産婦人科)

Fetal cystic hygroma 先天性頸部嚢胞状リンパ管腫は, 後頸部にリンパ管由来の嚢腫を形成する稀な奇形で, 全身水腫を伴い, 流早死産時に, 発見されることが多い。

今回, 妊娠18週時に, 超音波検査で発見した1例を報告する。

症例は, 32才の看護婦で, 家族歴, 既往歴, 月経歴に特記すべきことなし。2経産。昭和59年7月, 妊娠22週で, 全身奇形児 (詳細不明) を死産している。今回, 昭和63年1月27日から5日間を最終月経として妊娠し, 6月3日, 妊娠18週の検診時に, 子宮底長26cm, 超音波検査で, 胎児の後頸部に, 多房性の左右対称性の cystic mass と, 全身水腫を認めた。

6月8日羊水穿刺施行した後, 6月15日にプレグランドイン腔坐薬により, 966g 女児を死産した。解剖所見では, 後頸部嚢腫, 全身浮腫, 胸膜水を認めたが,

内臓奇形はなかった。羊水による染色体分析の結果は46XXであった。

### 23. Chlamydia Trachomatis の診断

○国部久也, 上田由生子, 金子利朗  
村田 均, 桑原惣隆, (金沢医科大産婦人科)  
池端 隆, 寺国弘平  
(同 大学中央臨床検査室)

### 24. 穿孔性虫垂炎による PID の症例

○高橋義弘, 大森正弘, 飯田和質  
(福井県立病院産婦人科)  
下腹部痛を主訴とした婦人で, 原因が炎症性疾患と考えられる場合, 産婦人科的疾患か内科・外科的疾患か鑑別に困難な症例がある。今回, 我々は骨盤内感染

症 (PID) と診断し開腹したところ, 回盲部に炎症性腫瘤を形成し, 穿孔性虫垂炎と判明した2症例を経験したので報告する。

症例1は, 43才・工員で, 昭和63年2月13日より下腹部痛・腹部膨満感を認め, 骨盤腹膜炎・子宮筋腫と診断し, 抗生剤等で治療したが病状軽快せず, 開腹したところ, 回盲部に炎症性腫瘤を形成し, 穿孔性虫垂炎と判明した。症例2は, 63才・無職で, 昭和63年2月11日より下腹部痛を認め, 右付属器部鶏卵大・軽度圧痛にて右卵巢腫瘍茎捻転・右付属器炎と診断し開腹したところ, 回盲部に膿瘍を形成し, 穿孔性虫垂炎と判明した。

下腹部痛を訴える場合は, 鑑別診断に際して, 虫垂炎も念頭に置くべきことを痛感させられた。